

古代ラテン語集成案内

1989

古代ラテン語集成案内

目 次

	頁
I. 編纂研究所組織	2
A. 本辞典編纂の歴史	2
B. 編纂研究所構成員	5
C. カード資料室と図書館	5
II. 本辞典の解説	6
A. 語彙資料	6
B. 語彙分類の方法と記述	7
1. 見出し語の構成	8
2. 序 部	9
3. 主 部	10
a. 語意の提示	10
b. 語史の解説	11
α. 用例の分類と配列	11
(I) 分類項目の対置配列	12
(II) 意味内容に基づく分類基準	13
(III) 用例の年代順記載	14
β. 用例選択の基準	15
4. 補 追 事 項	16
C. 略号ならびに表記法	17
1. 論述項目の順位に関するもの	17
2. 用例省略の明示に関するもの	18
3. 用例引用と説明に関するもの	18
4. 省 略 記 法	19
あ と が き	25

I. 編纂研究所組織

A. 本辞典編纂の歴史

ルネサンス期いらい、古代から伝承された全資料をもとにラテン語語彙をもれなく集成し、その全てを記載した辞書の出現を切望した人間は数多くおり、そのためこの要請に応えることのできるような辞書編纂の大業を試みた個々の文献学者も跡を断たず、R. Stephanus, A. Forcellini, I. I. G. Scheller, R. Klotz らがその名を留めている⁽¹⁾。しかしながら、個々人の力量をもってしては、この大業のとうてい成りがたいことがやがて明白となるに及んで、19世紀の学者たちは、複数研究者の協力のもとに全ラテン語文献を網羅した資料による集大成(Thesaurus totius Latinitatis)の編纂に思いを抱いたのであるが、その計画の進展は見られなかった⁽²⁾。

(1) これについての詳細な記述は、F. Heerdegen, 'Lateinische Lexikographie', (Stolz-Schmalz, *Lateinische Grammatik, Handbuch der Altertumswissenschaft II 2*, München 1910, 693 sqq. 所収)

(2) ここに始り以下に続く一連の事情については、Heerdegen, op. cit. 並びに *Thesaurus* 第1巻の緒言が最も詳細である。加えて、A. Szantyr (Hofmann-Szantyr, *Lateinische Syntax und Stylistik, Handbuch der Altertumswissenschaft II 2*, 2 München 1965 (1972 再版) の補章 p. 74sq. 所収); W. Ehlers, *Der Thesaurus Linguae Latinae. Prinzipien und Erfahrungen (Antike und Abendland 14*, 1968, 172sq. 所収); G. Polara, *Il Thesaurus Linguae Latinae (A. Garzya-M. Gigante-G. Polara, Omaggio a B. G. Teubner, Napoli 1983, 77-111 所収)* を参照。

しかし、やがて遂に古代ラテン語集成の編纂事業が開始の日を迎えることとなったのであるが、それはエドワルト・ヴェルフリン (Eduard Wölfflin) の献身的努力に負うものである。彼は、'Archiv für lateinische Lexikographie und Grammatik, als Vorarbeit zu einem Thesaurus Linguae Latinae' と題する年刊誌を創設し、1884年創刊以来その誌上には⁽³⁾、将来の「集成」の論述構成の手本となるべき、多くの論攷が掲載された。さらにこの企画遂行のために数多くの専門学者が協力態勢を編成するや、ヴェルフリンは、基本資料の集大成と辞典項目の記述にむけての準備作業として、協力者たちにラテン語原典を配分し、綿密な検討を行わしめたのである。

・ 1893年テオドル・モムゼン Theodor Mommsen の提案に基づき、ベルリン、ゲッティンゲン、ライプツヒ、ミュンヘン、ウィーンの五つの人文系学士院は、ラテン語語彙辞典の編纂刊行事業を決定した。五学士院間に交された合意に基づき、この辞典の基礎資料となるべきものとして、(i) 現存するラテン語資料のうち原作が西暦150年頃以前の時代に属するものは

全て、もれなくカードに記載整理されること。(ii) また原作がそれ以後であっても西暦 600 年頃以前の時代に属するものであれば、各々の分野の専門家の手を煩わせて、広範囲にわたる抜粋カードが作成されること、となった⁽⁴⁾。こうして1894年、ゲッティンゲンの F. レオ (F. Leo) とミュンヒェンの E. ヴェルフリンの監修の下に着手された作業は、まさに幸先のよい進捗を示し、1899年ミュンヒェンにおいては——その間にすべてのカード資料はミュンヒェンに集積整理されていたわけであるが——、語彙についての最初の記述原稿が執筆されうる段階にたっていた⁽⁵⁾。つづいて翌1900年からは、ライプツヒの出版社 B. G. トイブナーから、それより3年以前に結ばれた契約に従って、本辞典が発刊されるはこびとなった。

(3) *Thesaurus* の第1分冊の刊行後、この年刊誌の副題は、‘*als Ergänzung zu dem Thesaurus Linguae Latinae*’ に改められて、1908年まで継続刊行されている。

(4) 基本資料の集成についてなお詳しくは、本稿 II A の項参照。

(5) この時点から後は、編集主筆 (redaktor generalis) が、実務責任者となっている。初代 F. フォルマー (Friedrich Vollmer) に続いて E. ロンマツシュ (E. Lommatzsch) 1905-1912, G. ディットマン (G. Dittmann) 1912-1936, B. レーム (B. Rehm) 1936-1942, H. ルーベンバウアー (H. Rubenbauer) 主筆代行 1942-1947, H. ハフター (H. Haffter) 1947-1952, W. エーラー (W. Ehlers) 1952-1974, 1974以降、今日まで P. フルーリ (P. Flury) がその職にある。

基礎材料の集成が所期の5年間のうちに順調に完了されたところから、古代ラテン語集成の記述編成の作業そのものも、おそらく15年間のうちには完結するであろう、というのが当初の予測であった。しかしながら、第1巻第1分冊刊行いらい12年経過し、その間には事業促進のために懸命の努力が傾けられたにもかかわらず、完成したのは最初の4巻のみにすぎず⁽⁶⁾、そのために完成期日を1930年まで延期せざるをえなくなった。積明の口上としては、事業そのものが前例のない規模を有するものであるために、その完了までに必要な期間を前以って設定するに適切な規範がなかったことが挙げられた。

(6) 今日迄に刊行されている部分は以下の通りである (1901年いらい各折り一刷り上りの16頁一の第1ページには、その部分が印刷承認をうけた年月日が記録されている):

vol. I A-Amazon	1900(- 1905)	vol. VI 3 H	1936 - 1942
II an-Byzeres	1900 - 1906	VII 1 I-intervulsus	1934 - 1964
III C-comus	1907(- 1912)	VII 2 intestabilis-lyxipyretos	1956 - 1979
IV con-cyulus	1906 - 1909	VIII M	1936 - 1966
V 1 D	1909 - 1934	IX 2 O	1968 - 1981
V 2 E	1931 - 1953	Onomastici vol. II C	1907 - 1913
VI 1 F	1912 - 1926	III D	1914 - 1923
VI 2 G	1925 - 1934		

Onomasticon (固有名詞辞典) の刊行中断については、本稿 II A 参照。vol. IX 1 N の刊行は、所収予定の語彙が膨大な量にのぼり、刊行計画に遅滞を招く恐れがあるために、他の諸巻の順序からは外されている。

だが事実、最初設定された期日はもとより、延期された期限がきたときにも、「集成」は完成には至らなかった。主要な原因を挙げるならば、先ず第一には、今世紀に生じた世情の激動が、*Thesaurus* にも激しく襲いかかり、その進捗を甚だしく困難ならしめたこと、そしてまた他方では、今回の辞典編纂の基本条件そのものに由来するところもあって、最初の基礎資料の集成から時日が経過していくに従って、最初の原則を墨守してカード化された資料のみを基として論述を仕上げる、ということが、次第に困難になってきたのである。そのために、見出し語が含まれている全ての引用箇所は、主要校訂諸本との照合のうえで、その文脈が吟味され、また解釈に際して適切な意味を示す何らかの補助的研究があれば、これも重視する、という方針がつとに踏襲されることとなった。それらの理由に加えて、古典文献学をはじめ古代研究の諸学の発展にともない、「集成」がみたすべき要請は日々増加の一途を辿り、その結果、一例を挙げるならば、後期ラテン語文献、とりわけキリスト教教父たちの残した文献については、抜粋文の補足追加の面でも、語彙の論述構成においても、より一層に慎重な配慮が求められることとなった。そして最後に最も重要な点を挙げるならば、編纂協力者たちが語彙の探索や分類記述の経験をつうじて身につけることとなった方法論と識別眼は、次第に微妙な色分けを識別することとなり、やがては最初の方針から大きく離れていくことにもなった。以上に挙げたような諸点はいずれも今回の編纂事業としては無視できない重要性をもっていた。なぜならば、古代研究、言語研究、そして今回の「集成」編纂は、三者相互の影響関係のもとに始められたものであり、今日までその歩みを刻んでいるからである。

さらにまた、辞典掲載の諸論攷に随伴すべき附加的小論、説明論文、副次的記述の類を公刊する目的のもとに、‘*Beiträge aus der Thesaurus-Arbeit*’ と題された一連の小論文が、1934年くらい *Philologus* 誌上に連載されるはこびとなったが、その後1952年以降は、*Museum Helveticum* 誌がこれを引き継いでいる⁽⁷⁾。

(7) 1976年に至るまで、この連載形式によって刊行された小論文を一巻にまとめて再刊したものが、‘*Beiträge aus der Thesaurus-Arbeit. Herausgegeben vom Thesaurus Linguae Latinae, Mit einem Vorwort von Heinz Haffter*, Leiden 1979. である。

ともあれ、ドイツとオーストリアの諸学士院の協力によって創始された我々の編纂事業が、第一次世界大戦直後の世情混乱のために存亡の危機に見舞われたとき、これに対して四方から、また諸外国からも、多大の援助の手が差しのべられたお陰で、中断を免れることができた⁽⁸⁾。事実また第二次大戦後も、「集成」編纂を継続することができたのは、ドイツ並びに外国のアカデミーや学術会議の代表者の構成する国際 *Thesaurus* 委員会の恩恵によるものであり、1949年以降の「集成」の刊行は、この組織の責任において進められてきている⁽⁹⁾。

(8) 援助者諸氏の芳名欄の一例は、第6巻の冒頭に掲げられている。

(9) 編纂者並びに援助者の芳名欄は、各分冊もしくは各巻の序に掲げられている。

B. 編纂研究所構成員

編纂作業は、約20名の研究所員の分担によって進められる。編纂主筆、各巻の編輯責任者、項目論述の執筆者たちである。この研究者集団には、当初より常時ドイツ及びオーストリアからの文献学者が参加してきているが、1920年以後はその他の諸国からも参加を得ることとなり、とりわけ新たに国際的委員会が設立されてから後は、国際色が著しくなっている。

他方また必要経費の大部分は西ドイツ連邦、とくにバイエルン州によって賄われている。しかし編輯者会議に代表派遣を行なっている諸国の学士院、学術会議なども、「集成」編纂の年次経費に対して経済的援助を醸出したり、また、執筆者たちの研究集団に、二年もしくは三年間にわたって参加すべき協力者を、自国の給費生として派遣している。

外部からも編纂作業に協力を惜しまない助言者たちが数多くいる。ある種の語の語源について、またある種の語彙の、いわゆるロマンス系言語における保持状態などについては、これらの分野の専門家たちが執筆している。さらに校正段階においては、数多い外国の学識者たちがその都度惜しまない助力を提供し、各人各々の専門分野との関わりにおいて特に細心の注意を傾けながら、個々の語の論述を吟味し、訂正、補筆、あるいは極めて有益な意見を寄与することとなっている⁽¹⁰⁾。

(10) 各巻の編纂に助力を賜った助言者諸氏の芳名は、各巻の序言に記されている。また第1巻いらいの慣行として、各項目の論述末尾もしくは、一連の論述の末尾には、各々の執筆者の名が挙げられてきたが、第5巻以降はさらに各頁の下欄にも記されることとなった。編輯責任者たちの名は、各折り（刷り上りの16頁）の第1ページに略号によって示されている。

C. カード資料室と図書館

θησαυρὸς Thesauri（‘宝物殿中の宝物殿’の意）と呼ばれて然るべき資料室は、現在約10,000,000枚のカードを収蔵し、これによって西暦600年までのラテン語文献に現れる語彙を網羅している。これらのカードは、見出し語のアルファベット順によって分類され、また各見出し語ごとにまとめられたカードは、記載文献の年代順に整理されていて、通覧すれば見出し語が現れている文脈を確認できる仕組みとなっている。ただし、抜粋文献の場合には見出し語の引用個所の章節のみが記されている例も多いし、引用文献が後期に属する場合に散見されるように、用語索引もしくは原作者のコンコーダンスが挙げられていることもある。だが、カード資料そのもののなかには、個々の文脈における語彙の意味、文法的構文、文体的特色などを指示するような予備的情報は一切ふくまれていない。それらの問題を究明することこそが、まさしく各語彙の論述執筆者たちの仕事なのである。

カード資料室と並んで、編纂作業の方針に全面的に添うように整えられた図書館があり、外部からの研究者たちの便にも供されていることを附記しておきたい。

II. 本辞典の解説

A. 語彙資料

語彙の記述の、基礎となる材料は、カード資料室に収められているが、これは最古期に始まりアントーニヌス王朝期に至るまでの間に記されたラテン語諸文献のうち、今日なお伝承されている原典の全てを網羅し、それらに基づく文例の全てを記録したものである。その時期以降から西暦600年頃に至る時代の文献のうち幾種類かのものは、編纂作業の当初から、また別の幾つかはその後になってから、全体資料の中に編入されるはこびとなった⁽¹⁾。

しかしながら、後期の時代に属する他の一切の原資料からは、抜粋とはいえ広範囲にわたる集成がすでに終っており、さらに従来は顧慮されることの無かった原典もしくは新しく発見された原典、とりわけ碑文資料に関しては、既存の抜粋資料を精査すると共に新規の抜粋製作によって完備を期する努力を怠っていない。またそれとは別個に、第1巻が1900年に刊行されたのち、学会研究諸誌をはじめあらゆる文献学的研究を渉猟精査して、新たな材料集成が始められており、これらは補追項目として今日もなお増加の一途をたどりつつある⁽²⁾。

(1) この時代に属する文献中、以下の作者らの作品、あるいは文献は、すべてカード資料に組み込まれている。フロント、ガーユス、アブレーユス、ローマ法大全 (*Digesta*)、ミヌーキウス・フェリックス、テルトゥリアヌス、キプリアヌス、ローマ皇帝伝史家 (*Scriptores Historiae Augustae*)、アルノービウス、ユウェンクス、‘アエテーリア巡礼記’ (*Peregrinatio Aetherae*)、アウィエヌス、ヒエローニムス‘書簡集1-65’、ラテン語聖書、ブルーデーンティウス、聖アウグスティヌス‘神国論’全巻、コンモディアヌス、テオドーシウス法典、ユースティニアヌス法典、ボエーティウス‘哲学の慰め’全巻、‘師の規則’ (*Regula Magistri*)、ならびに、‘ベネディクトゥスの規則’ (*Regula Benedicti*)。碑文資料に関しては、カエサル之死に至るまでの時代の、ラテン語碑文総集 (*CIL*) 第1巻に含まれている限りの碑文全部と、帝政期に入ってから的重要な碑文はみな、カード資料に編入されている。それ以外の碑文、ならびにパピルス文書は、抜粋の形で、カード資料室に保存されているにすぎない。

(2) これについての詳細は、P. Flury, ‘Aus den Addenda des Thesaurusarchivs,’ *Museum Helveticum* 41, 1984, 42ff. によって報じられている。

年代が比較的に新しい基礎文献の場合には、語彙項目の論述にとって必要とされるだけの抜粋だけで処理し、これによって概ね全体が捕捉されうると定めたことは、語彙集成の編纂にとっては極めて適切な処置であった。という理由は、現在、とくにコンピュータなど機械的補助手段を用いれば、資料の厩大な山を築くこと、例えば、教会教父たちの全著述のカード資料を集成することなどは、比較的簡単にできるであろうが、しかしそのような莫大な山積から、語彙の意義を引きだすために何らかの役に立つような用例を選択するとなれば、けたはずれの時

間と労力の費消をとまなうことになっただろう⁽³⁾。またもし、ある特定の語彙の全用例を徹底的に調査したいという場合には、昨今その数が日毎に増しているところの、作家別もしくは資料別の索引やコンコードダンスの類が、その必要に充分応えうるといっても過言ではあるまい。さらに、現在進行中の、全ラテン語文献をコンピュータによって網羅捕捉するデータバンクも、役立つことであろう。

他方、最初の計画によれば、固有名詞も *Thesaurus* の項目に編入されることと定められ、これに従って第1、第2巻では各々 A、もしくは B、に始まる固有名詞が、普通名詞と共に項目化され、また C と D に始まる固有名詞は別巻 *Onomasticon* (固有名詞巻) として刊行されたのである。しかしその後、*Onomasticon* の継続刊行は、歴史学や家譜人名の研究にとって有益であっても、文献学者にとってさほどに益する処はないという理由から、普通名詞の諸巻を一刻も早く完成させるために、中断された。ある語彙が、固有名詞として用いられているのか、普通名詞として用いられているのか、見分け難い場合には、個々の見出し語の事情に即して個別に判定が下される⁽⁴⁾。

(3) 基礎文献の量が、編輯能力を超えて辞典としての限界を侵すものとなることは、聖アウグスティヌスただ一人の著作量からだけでも十分に明らかである。その全著述をカード資料化した場合には、資料室の収蔵枚数量は今の五割方増加する。

(4) *luna, musa, oceanus, ops* のような、それぞれの語彙によって神格が指示されるような場合があっても、その種の語彙の例文は普通名詞の扱いとなっている。だが、*levita* とか、*palatium* などの語彙が、*Onomasticon* 収録用語として遠ざけられているのは、いささか残念である。

さらにまたギリシア語系の語彙一般については、*ostracum* ὄστρακον のように、ラテン語形に同化されているものに限らず、これに加えてギリシア語形と同一の形で現れるもの、例えば *ostracoderma* ὄστρακόδερμα のごときものも収録されることとなっているが、ただし、字体そのものや文脈から判断して、ギリシア語語彙として引用されているものは、含まれていない。しかしながら、ラテン語原典の歴代校訂者たちは、ギリシア語語彙の綴りや字体の扱いについて、各人各様であるために、綴字体が写本伝承によって保持されている様態を確認することが困難である場合が少なくない。本辞典の編纂においてもこの点についての一貫性を維持することはできていないし、また、ギリシア語起源の基礎資料の場合、統一的方法と処理によって、カード資料に編入されているとはとうてい言い難い⁽⁵⁾。

(5) そのために、基本資料には、キケロの著作に含まれている幾つかのギリシア語由来の語彙、例えば *epagoge* などが、欠落していた時期もあった。

B. 語彙分類の方法と記述

どのような語彙であっても、固有の性質を持ち、固有の歴史を持つものである。従って、それを記述するに際して基準となるような、普遍的規則というものとは、とうてい存在しえない。

しかしながら、我々の編纂作業の経験をつうじて、幾つかの方法もしくは慣行が有効であることが明らかとなったので、以下にその中の主要なものを簡潔に記す。

本辞典と類似の他の諸辞典、例えばグリム兄弟の編纂になるドイツ語辞典を見れば、編輯初期の段階では文例が、概ね比較的単純な配列に従って並べられていたものが、経験を重ねるに従って、徐々に以前よりも肌理こまかい解釈や分類配列が目立つ結果となる。それと同じような状況が、このラテン語「集成」においても生じている⁽⁶⁾。そのために、論述構成の上では極めて多様な形態の派生を見ることがとなったが、これについては逐一この場で説明するのを控えることを、ご寛恕ねがいたい。

(6) その一例として、第2巻所載の *antecedo* の論述と、第10巻の *praecedo* の論述とを比較されたい。またこの問題についての詳細は、P. Flury, 'Der Thesaurus Linguae Latinae', *Eirene* 24, 1987, 8-15 に記されている。

次に、語彙の論述を構成することとなる主たる項目は以下の通りである。1) 見出し語の構成、2) 序部、3) 主部、4) 補追事項。

1. 見出し語の構成

見出し語の構成に際して、本書は、幾つかの特殊事情が介在する場合を除いては、一般慣用の綴りと読み方に従っている。次に、変化形を指定するために、語尾の諸形を略号を用いて附記しているが、しかし実際に用例が知られていない変化形の場合には、復原形をもってこれに替えることを原則とはしていない。

主見出し語項目内に、派生語として扱われる従見出し語は、アルファベット順の配列ではなく、その語源の語彙の直接後に置かれている。派生語がアルファベット順に従って置かれるべき場所には、替え見出しが挿入されていて照合できるようになっている。このような例は、例えば、本来は分詞であるものが、形容詞もしくは名詞として使用される時のように、語彙の占める一つの品詞が、他の品詞に替えられていると見做される場合に頻繁に生じている。同様に、形容詞から派生した副詞形も、形容詞である語彙に続く。他方、幾つかの、用例の定着した熟語表現は、例えば、*ius iurandum* が語彙 *ius* の下に、また *lucri facio* が語彙 *lucrum* の下に来るように、その熟語の主要要素を占める語彙の項目内で扱われる。

さらにまた、存否の疑わしい語彙もしくは正当性が否定された語彙は、各々の場合に応じて、語の前に疑問符もしくは文献学の十字印が付されたり、あるいはその見出し語が古代ラテン語文献の語彙から除外されるべきものならば、角括弧によってくくられている。

見出し語の前上に附されている ^x の記号は、その語彙を記載した全部の基礎資料の中で、幾つかの例文が語彙論述の対象外になっていることを示す。下記 15, 18 ページ参照。

最後に、語彙の読み方については、見出し語を含む長母音の上に横線記号を附してこれを示

す。なお、後期の語彙の場合、音節の長短の差を測ることは困難となるのであるが、一貫性を保持するために、同じ記号によって長音を示している。これは、語源上の考慮に基づいて附記したものである。他方、動詞の現在・1人称単数形語尾の *o*、ならびに *-io* に終る名詞の主格単数形の *o* の場合は、長音記号による指示は行なわない。これらの場合の *o* の縮音化は、かなり早期から一般化していたからである。

2. 序 部

見出し語の構成に続く序部においては、その語彙に関して古代の著述家や、現代の文献学者たち、また項目執筆者自身が提供する一般的な知見がとりまとめて記されている。それらの事項を語彙の歴史や変遷の記述とは別個に扱い、主部に先立って概ね以下の順序で提示することとなっている。

語源について、本辞典の記載のために印欧語系諸言語の専門家の執筆した部分は、角括弧でくくり、最後に執筆者名を略号で記す。複合語などの場合は、項目執筆者自身による語源解説が記載されている。

語彙の起源について、古代人が推測により記述している事柄は、現代人の判断に顧慮することなく、紹介されている。

綴字法については、見出し語の形と不一致のものがある場合に、碑文、パピルス文献、西暦7世紀以前の古写本を慎重に検討した上で、その旨を記す。

‘notatur’ と語彙の頭に記してあるのは、西暦600年以前の資料（碑文、貨幣、パピルス文献を主とする）において、語幹が省略記号で記されている際の様態を示している。しかし変化形の語尾省略の形は、記載しないことを常とする。

‘NOT. Tir.’ (Notae Tironianae) (Tiro 式略記号) は、特殊な場合を除き、主要校訂本における頁・章節を指示している。

文法的性について、またその転化について、注目に値するとされてきたものは、これについての古代人の証言を附して、提示する。

語形については、慣用的な形から距っているものを重点的に列記し、古代人が残している証言を添記する。

音節の長短 (prosodia) については、とくに注目に値するものとして、古代人が言及している諸例、ならびに現代の学者や項目執筆者自身が特筆に値すると見做した諸例が、記されている。

語意について、古代人の伝える語釈を紹介し、難解語解説 (glossae) は、この項の最後に置く。しかしながらこれらの事項は、主部の個別文例もしくは個別の項目の中に、古代人の証言として附記されている場合もすくなくない。

‘*legitur inde a*’ という表示は、当該の語彙の数世紀間にわたる使用頻度の概略が記述される時、用いられる。その際、語彙の実状に即して、単数形と複数形の別や、詩文か散文かの別まで、分離して扱わねばならないこともある。また場合によっては、同意語との比較を簡単な指示や語彙頻度表で示したこともある。

ロマンス語系諸言語の世界まで、もし語彙が連続的使用によって生き長らえることがあった場合には、その分野の専門家がその点について解説を施す。その部分は角括弧でかこみ、その学者の名を省略記号によって附記する。(ロマンス語系諸語を表す略号表は下記 21 ページ参照)。

原典批判に関わる附記は、やはり角括弧でかこまれているが、ここには、見出し語と発音、綴字法、語意などが近似しているために、写本文面上で、頻繁に混同されるような単語や見出し語を置き、又、文脈の字句が誤伝されているために、主部の論述に編入できないような例文、また、注目に値する原文修復の試案、などをとりまとめている。

3. 主 部

a. 語意の提示

近年の「集成」編輯の慣行によって、論述の主部の冒頭に、概括的な語意を掲げることになっているが、そのような提示ができない場合には、論述内の小項目ごとに個別の解釈を記する。語意の提示は、概ね同一の意味を伝える語句表現をもって行ない、その前には、*i(dem)*、*q(uod)* の記号を附する。慣行としては、見出し語をラテン語以外の言語に翻訳することはないが⁽⁷⁾、場合によってはギリシア語を用いている。例えば、下記に言及されている語 *lux* の文例において、ラテン語による語意の提示と並んで、ギリシア語が示されている如きである。従って大多数の場合は、同意語を用いたり、さらに頻繁には、パラフレーズを用いる必要が生じるが、その際には最大限、語源上の考慮を払いながら、語彙が有する本来的かつ中心的内容を記述することを努力目標としている。このような記述によって、本辞典が提供したいと希い、かつ提供できるものは、語意を理解するための、いわば最初の取っ掛け以外のなものでもない。個別の文例を精査検討することによって、やがては語彙の全般的用法のすべてを看取する能力が生ずるものであるし、また、全用例の考察に基づいてはじめて、個別の文例を正確に理解することができるからである。

(7) W. Ehlers, loco cit. p. 177sq. 参照。

語釈の記述に続いて (括弧でくくられている場合もあり、あるいは第一小項目に先んじて前置きの位置にある場合もあるが)、さらに語意解釈に関わる事項、とくに *synonyma*, *opposita*, *iuxtaposita* (これらについては、下記を参照されたい)、また、古代より伝わる定義や、類似語間の意味上の差異の指摘などが、ここに記されている。

b. 語史の解説

α. 用例の分類と配列

主部においては、各語の歴史と用法の概要が理解されやすいように、小項目に標題を附し、配列原則を明示した符号を記し、すべての基本資料をこれに従って分類し提示することが、「集成」の慣行となっている。このような分類配列と語意解釈によって、本辞典が明らかにしている見解については、どうか読者自身が検討を加えられ、自身の批判的能力によって判定を下されるよう、お願い致したい。大規模な配列構成をもつ項目の一例として、単語 *lux* の論述構成を以下に紹介する (vol. 7, 2, Sp. 1905, 56sq. 参照)。

i. q. (単語 *lux* ‘光’ の語釈) *claritas lucendo effecta* (‘光を発することによって作りだされる明るさ’)

caput prius (第1大項目): *proprie* (本来の属性に従って)

I. *generatim* (種類別)

A. *-x caelestis* (天空に現れる輝き)

1. *diei, solis* (日の、太陽の)
2. *signorum nocturnorum* (夜空の星辰の)
3. *fulminis* (雷光の)
4. *arcus caelestis* (虹の)
5. *nimbi diuini* (神的な雷雨の)

B. *-x non caelestis* (天空のものではない輝き)

1. *strictius pertinet ad ignem* (比較的厳密に火焰に関わるもの)
2. *latius vel hyperbolice* (比較的広義に、もしくは誇張をふくんでいるもの)

II. *speciatim de virtute oculorum* (特に、眼の優れていることに関して)

A. *per se* (*lux* だけで用いられている場合)

B. *cum determinatione* (他の語、例えば *oculorum* の並用によって、その意味が限定されている場合)

caput alterum (第2大項目): *in imagine et translate* (比喩として、又、本来の光とは異なるものを指している場合)

I. *usu profano et communi* (世俗的かつ一般共通の用法)

A. *praevalente respectu decoris, praeclaritatis sim.* (主として風姿物腰の優雅なるさま、光彩陸離たるさま、など)

1. *metonymice de hominibus* (人間の属性を現わす転喩 *metonymy* として)
2. *de ipsa praestantia* (卓越性そのものを現わすものとして)

B. *praevalente respectu intellegentiae salutaris, revelationis, explanationis sim.* (主

として有益なる洞察力、発明発見、説明解釈などの優れたことを指すもの)

II. usu Iudaeorum et Christianorum proprio (ユダヤ教徒およびキリスト教徒に固有の用法)

A. generatim (種類別)

B. metonymice (転喩 metonymy として)

C. peculiaria (特殊用法)

さて次に本辞典の慣行としてきたところの、見出し語の用例の分類と配列の方法について、簡単に説明を加えたい。

(I) 分類項目の対置配列

初期の編輯方針では、個々の分類項目を連続的に並置して一連の論述を構成するのが常であったが、これを改めて、項目の対置配列の努力がなされるようになってから既に久しい。対置配列というのは、相互に背反的な根拠で色分けできる二つあるいはそれ以上の数のグループ、例えば I と II、あるいは A と B と C のような分類を設け、それらを等位の分類項目と定める方法である。これによれば、例えば、単語 *lux* の転喩的 metonymicus 用例として人間が *mea lux* (私の光明) と呼ばれている場合、この文例は *caput prius: proprie* の分類項目の下ではなく、*caput alterum: in imagine et translate* すなわち、小項目 IA 1 Sp. 1915, 8 sqq. に見出されることとなる。

それ故に、もし読者がある特定の出典なり、意味なり用例なりを見付けたい時には、先ず第一に分類配列の仕組を理解することが大切であり、また部分と部分とが互に対応している有様を比較検討してみなくてはならない。という訳は、分類項目の標題は、それだけからは明瞭な意味を汲むことは不可能であるけれども、それと対置配列されている標題と比べてみればたちまち明らかになる⁽⁸⁾。一例として再び語彙 *lux* の論述構成に眼をむけよう。*caput prius* の下にある小分類 I. *generatim* は、同じく II. *speciatim de virtute oculorum* の下に集められた用例以外の、すべての *usus proprius* を含んでいる。同様に *caput alterum* (第2大項目) においては、II A *generatim* の下に、同 B の下の転喩表現と同 C の特殊表現以外の、ユダヤ教徒とキリスト教徒の言語用例がまとめて掲げられている。

(8) 文法上ならびに修辞法上の概念の呼称もしくは術語は、伝統的に文献学者が今日まで用いてきたもの、例えば、Leumann, Hoffmann, Szantyr の *Lateinische Grammatik (Handbuch der Altertumswissenschaft)* の用いているもの、を本辞典でも踏襲している。

しかし実際には、用例の箇所を、厳密な定義によって定められた小項目に組み込むことができない場合もあり、そのような時には、意味の主たる相 (*respectus praevalens*) を優先させて分類する。例えば、語彙 *lux* の第2大項目の IA 及び IB において‘主として’とあるのは

その含みである。また同じ語を扱った論述の Sp. 1910, 10., 1911, 52., 1916, 13 の注意書きにも見られるように、分類の適否が確実ではない用例は、その旨が項目標題に附記されている。このような実例に屢々出会うということからも明らかなように、小項目の厳密な対置配列は、分類配列上ある程度の有用性が認められる一つの方法にすぎない。与えられた一つの語の運命を、その語に合った分類と配列に従って記述することが、本辞典の課題であって、いたずらに外部から持ち込んだ枠組みに言葉を隷属せしめることが目的ではない。

(II) 意味内容に基づく分類基準

基本資料を分類の順位に従い、項目別に仕分ける際の基準となるのは、各語の意味内容と使用実例であるが、これらは、基本資料自体が有する性質、つまり各語各様に異なる条件に従って、定められる。

それ故に分類に際しては語義上の区別がしばしば最も重要視される。例えば、単語 *lux* においては、大項目として対置されている二つの分類は、*caput prius: proprie* と *caput alterum: in imagine et translate* となっている。さらに第1大項目 (*caput prius*) の下位には、I. *generatim* と II. *speciatim* の二つの項目が対置されており、さらにまた IB の下位には、1. *strictius* と 2. *latius* とが対置されている。しかしながら、見出し語が指示する事物そのものの固有の性質に基づく分類基準は、単語 *lux* を例とすれば、第1大項目の中でも下位の分類に現れる。IA に至って *caelestis*, 同 B. *non caelestis* の区別が設けられているし、またさらに A の下位に 1. *diei* と 2. *signorum nocturnorum* の別が現れるのである。同じ原則により、形態論に基づく分類も下位を占める。例えば、Sp. 1906, 5 (I) '*locat. -i*' と同欄, 42 (II) '*abl. temp. -e*' の区別や、Sp. 1911, 26 α. *plur.* と同欄 51 β. *sing* の区別の如きである。最後に、文体論の基準に基づく分類は、同じ見出しの中で、論述の最終部に補追 *appendicula* の形で加えられている。

統辞論に基づく分類は、単語 *lux* の場合には、例えば、第1大項目の下位小項目 II A *per se* と同 B の *cum determinatione* に現れるように、下位のレベルに甘んじているが、単語によっては、上位の分類基準とされることも稀ではない。例えば、構文変化を伴う動詞、*obliviscor* とか *oppleo* の場合などが、ちょうどそれに当たる。だが、統辞論に関わる事柄が、対置配列によって適切に説明できないときには、文法構造について別個に記述することが慣行となっている。*praeiudico* の場合のように、補追の形で然るべき位置に記述し、これを全体の配列の中に記号で明示することもある。この種の補追は、*ordino* のように主部そのものに先行する場合もあれば、また *orior* Sp. 999, 19 sqq. のように、主部の中の主要項目に先行しているものもある。

上述の、またそれらに類する他の、語彙分類の基準を識別することを進めていく一方、他方

では、それらの間の関連をけっして無視するようなことがあってはならない。例えば動詞の場合、語義と構文との相関関係が、特に明白に現れることが頻繁に見られる。目的語として、可動物を取るときもあれば、不動物を取るときもある動詞、例えば、*infundo alicui aliquid* (何かに何かを注ぎ込む) と *infundo aliquid aliqua re* (何かを何かで濡らす) の場合に、それが認められるし、あるいはまた、*ligo zonam* (帯を締める) と *ligo nodum* (結び目を結ぶ) のように、目的語が動作の影響を受ける対格であったり、動作の結果生ずるものを現わす対格であったりする動詞の場合も同様である。さらにまた、*ludo*, *moveo*, *obsequor* などのように、他動的にも、自動的にも、用いられる動詞の場合、やはり語義と構文は不可分の関係にある。

次にまた、特殊な言語表現も、そこに当該の語が頻繁に見出される場合には、随所に別項が設けられ分類される。例えば、単語 *lux* の第2大項目 (*caput alterum*) の I には世俗的、一般共通の用例 (*usus profanus et communis*) がまとめられているのに対置して、その II にはユダヤ教徒キリスト教徒に固有の用例が集められている。このような分類基準が時おり極めて重要な意義を持つと思われるのは、法律・医学・建築など、人生諸般の問題や学芸に関する語や、叙事詩・エペグイア詩・弁論・書簡など様々の文芸様式において頻繁に現れる語彙の用例を然るべき配列に整理する際である。

最後に、自然物あるいはその他の事物の名称を論述する場合には、各々の物の本来の性質に基づく分題基準に従っている。例えば、当該の語によって指示された物が、自然の事物であれ人生諸般の事物であれ、それがどのようにして作られ、使われ、見出されるか、という問いが分類の基準となる。例を挙げれば、*oleum*, *ovum*, *panis* などがあり、他方ではまた *hasta* や *liber* などの日用品の類をあらわす語や、食用や薬餌に供せられる薬草類の名称も、この扱いに附されている。しかしながら、読者は本辞典から百科辞典的な記述を期待しないでもらいたい——もっともある程度はそれに類するものもないではないが (例えば、*panis* の項 Sp. 223, 3 sqq., 225, 44 sqq. 参照)——、何故ならば、本辞典においては、諸物の名称の場合にも、何よりも言語の研究が第一義とされているからである。なお別の理由を記するならば、多くの事物の場合、それを指示する語はただ一つに限られるということがない (例えば、*olea* と *oliva*, *oleum* と *olivum* のように)、従ってそのような場合、ただ一つの語を扱う論述の中では、充分な解説を附することはとうてい不可能である。

(III) 用例の年代順記載

等位の分類レベルにおいて対置される項目は、旧来の慣行によれば、一定の方法論によって配列が定められることになっていた。例えば、*usus proprius* は *usus translatus* の前に、*usus corporeus* は *usus incorporeus* の前に来ることになっていた。だが、近年刊行の諸巻では、用例の年代順記載が多くなっている。その理由は単に、論述の対象たるべき語の用例が年代順に

配列されていれば、即ちその語の起源や発展のあとを辿れるから、というだけではない。年代順に記載しても歴史が明らかにならない場合には、その事象自体が、軽からぬ意味を伝えていることがある。

そこで、分類配列の第1位に置かれる小項目では、全部の基礎資料の中で現存する最古の文例が示している用法を提示するように、努力が傾けられている。例えば、単語 *lux* の場合、最も古い用例から、その意味は日や太陽の光を指すものであるという証拠が挙げられるのであるが、十二表法やその他の初期の法令文の中に発見された用法は、所格 *luci* の形で *die* (日中に)、*interdiu* (日のある間に) という意味を表わしているところから、*lux* の論述の主部は、*locutiones adverbiales* の項 Sp. 1906, 5 に編み込まれたこの語形から書き始められている。

さらに一つの項目内においても、文例は出典の年代順に配列することが慣行となっている。但しこの配列順を中断する場合には、例えば単語 *lux* Sp. 1906, 73. SALL. hist. frg. III 96 C 4... (TAC. hist. 5, 22, 3). VERG. Aen. 10, 259, や、同 1906, 44-47 の、二つのキケロの用例の間にある初期の用例のように、括弧を附してその部分を示したり (この際の括弧の用法については下記参照)、あるいは当該小項目の末尾に簡単な補遺項目を設けてそこに送りこむこともある。同様に、括弧内の用例も年代順の枠に従っているが、補遺部分や、緒言部分においては、アルファベット順の記載がまま行なわれている。

β. 用例選択の基準

カード資料室に収蔵されている全部の用例を提示することは、稀な語を扱う場合を除いては、不可能である。従って本辞典編纂の当初より、適切に選択された基礎資料の提示が方針とされており、第3巻以降は、見出し語の左肩に ^x の附号をつけて、編輯者の手元にあるすべての用例が示されているわけではないことを断ってある。しかしながら、記載から除外された文例は、年代順に他の文例カードと共に編成されており、これを検索したいという希望者の役に立つように、カード資料室に保管されている。

さて、資料をどのような選抜基準に従って取捨すべきか。その問いに対しては、各語彙毎にその性質に適った判断によって答えを見出さねばならない。すべてに先行して、出典の年代が、先ず着目される。そしてその結果、どの語彙の場合にも、用法あるいは語義の用例中、最も古い時代のものを先ず提示することが慣行となっている。そのあと、概ね一般的かつ定着している用法を、あまり数の多くない出典を挙げて説明することになるが、長大な論述の場合には特に例文の選択は限られる。その理由は、語の歴史を記述するためには、例文の数よりも、約8世紀間にわたってその語が辿った変化の痕跡が、遙かに役に立つからである。本辞典の主眼はその問題と、またそれと同じく、あらゆる種類の特殊用例の指摘にあるわけだから、項目

記述に用いられる用例出典の数と、現存用例の数とが、正比例するべき必然性は全くない、と
言うことができる。

しかし最初に見出し語の前に ^x の記号が附されることになったとき、それはただ単に、全
部の用例がその論述記事には含まれていないことを示すに過ぎなかったが、間もなく、資料引
用が省略されている箇所があれば、その都度、ある一定の文言ないしは記号によって、その旨
を明示することとなった。この慣行が生れてからすでに久しい。例えば、項目の標題に添えて
exempla selecta と記したり、あるいは一連の用例記載の中途もしくは末尾に、*al.*, *saepe*,
passim と記すこともある（これらの記号の詳細は、下記 C2 参照）。

又、次の事柄を読者は心に留めて頂きたい。アントーニヌス王朝以後の原典資料につい
ては、カード資料室には、広範囲にわたるとは言え抜粋資料のみが収められているに過ぎな
い。またそれのみか、完全にカード資料化されている、それ以前の時代の基礎資料をもとにし
ても、その時代のラテン語がどのようなものであったかを徹底的に究めることは不可能であ
る。何故ならば、古代人が話したり書いたりした言葉のうち、ほんの僅かのものが、原典伝承
という名の選択を経て、今日われわれの時代まで伝わっているに過ぎないからである。従って、
一つの語彙の肖像画は、本辞典の執筆者たちが、精根かたむけて、カード資料のすべてを幾度
となく繰り、すべての文例を用いてその輪郭を辿ろうとしても、必然的に、それはスケッチで
あり、不充分かつ未完成のものとならざるをえない。本辞典の編集によって、見出し語に関わ
る研究が最終点に至ることはありえないし、またそのようには考えられない。むしろ、これに
よって研究が始められ、その歩みが進められることを期したい。

4. 補 追 事 項

統辞論、文体論に関わる記述をはじめ、その他、主部の分類配列の中に適切な場所が与えら
れることのなかった諸事項は、補追の中で記述されている。例えば、単語 *lux* の場合、論述の
末尾の前に、文体論に関わる補遺が付記されている。事実、*synonyma*, *opposita*, *iuxtaposita*
なども、最初の慣例では、論述の末尾にただ列記されるに留っていたが、今日では、読者の判
断のための道標として、適宜、肌理こまかい分類配列を施し、また出典個所の指示だけは欠か
さないことになっている。この種の記事は、括弧でくくられている場合もあるし、また *lucrum*
や *opus* の項目のように、語義解釈の前置きとなっている場合もあり、さらに *locuples* のよ
うに、補遺の形で集められている場合、などもある。

最後に、従見出し語（上記 1 参照）が、その必要あるときには記載される。その後、見出
し語からの派生語ならびに複合語が列記され、各々 *deriv.* あるいは *compos.* の略号が添えら
れている。最末尾に *cf. Onom.* と略記されているのは、見出し語が固有名詞としての用例を
も有するものであることを示している（上記 A 参照）。

C. 略号ならびに表記法

1. 論述項目の順位に関するもの (12ページ以下を参照)

I A I a α ① ⑩...

各項目とその分類配列を表示するために、左の如き略号を、次の順位に従って用いる:

I-II A-B 1-2 a-b α-β ①-⑩, 以下同じ。

caput. pars

若し論述が普通より長大なものとなるときには、更に上位の分類レベルを設け、これを *caput prius-caput alterum* とし、更に上位のものが必要であるときには、*pars prior-pars altera* とする。比較的短いものの場合には、最初の分類レベルが、1と2から始まることもある。

() ()

一連の用例が列記されている中で、幾つかの文例を一まとめにして提示する時、使われることが多い。すなわち、

ある名詞と、ある特定の形容詞とか、またある動詞と、ある特定の目的語からなる連関的表現が幾度も引用される場合、反復される語は字間にヒラキのある印刷体で記され、括弧の内部では頭文字によって略記されたり、もしくは全部省略されることもある。例えば、単語 *lux*, Sp. 1906, 44. Cic. Sest. 83 -e p a l a m (off. 3. 93 -e p. in foro); ib. 69: BELL. Hisp. 42, 4 -e c l a r a.....in medio foro (Liv. 23, 10, 7f. m., -e c., videntibus vobis.....)

また、意味内容もしくは他の理由により、比較対照されるべき文例を記すとき、この場合、類似点が認められるべき理由は、引用文例の前に、イタリック書体で綴られ括弧の中にくくられている。例えば単語 *lux* Sp. 1906, 51, (*fere i.q. prima -e, mane, item.....*). Ov. epist. 13, 102 sq. ars 1, 247.....ib.

56: (*rogatur populus*) si quis nocte sive -e.....faxit. al.

(...[...])

上記のごとき丸括弧部分の中に、さらにまた同様な主旨のもとに別の文例が編入されるとき、新規編入部は角括弧でくくられ、外側の丸括弧は太字活字で印刷されることが多い。例えば、単語 *lux* Sp. 1906, 51: (*fere i.q. prima luce, mane. item [exempla certiora]:*)

2. 用例省略の明示に関するもの (15ページ参照)

^xlux

見出し語の左肩に 附記されている ^x の記号は、資料室にカード記載されて保存されている文例の全てが、この項目に記載されているものではないことを示す。

al., et saepe,
et passim

al. の略号や, et saepe もしくは et passim が、適宜使用されている語句は、その部分に何らかの省略が含まれていることを示す。その正確な意味は、一連の用例列記の中で、これらの略号や語句が使われる位置によって定められる:

- a. 複数の著者名列記の中に挿入されている時には、その直前に名前が上っている作者に限って、用例が省略されていることを示す。例えば, lux Sp. 1908, 58: SALL. Iug. 99, 1.....VERG. Aen. 4, 586.....9, 338.....al CIRIS 349.....

- b. 小項目の末尾、もしくは括弧でくくられた一連の用例列記の末尾において:

アープレューユス以前の時代に出典が属する文例の直後で使われている場合には、その出典の作者の用例が省略されている可能性を示し、かつ、それ以後の用例全部が提示されていないことを示している。例えば, lux Sp. 1908, 58-65: CIRIS 349.....PROP. 4. 3, 32.....Ov. met. 3, 149.....15, 664.....(...[.]...). al.

アープレューユス以降の文例の直後で使われているとき、西暦 2 世紀中葉以降の文例が選択取捨されたものであることを示す。すなわち、作品全体を基にした選択ではなく、資料室カードの基になっている抜粋文から選ばれたことを表わしている。例えば lux Sp. 1908, 79-84: TERT. anim, 53, 6.....OPT. PORF. carm. 24, 3 (.....).....PRVD. ham. 965.....(.....) GENNAD. dogm. 62.....(SACR. Leon. 1155). al.

3. 用例引用と説明に関するもの

様々の種類の異なる活字は、以下の如き趣旨に従って用いられている。すなわち:

Cic.

大文字タテ活字は、見出し語が典拠とする作者名を表わす。

Verr. II 2, 156

慣用タテ活字は、見出し語が使用されている作品名と出典個所の巻、章、節、ならびに原典の文言すべてを表わす。

Cic. Verr. II 2, 156

イタリック活字とギリシア文字活字は、項目執筆者自身が、注釈もしくは説明の目的で記した部分、たとえば項目の表題や、説明的文言を表わし、かつまた、見出し語を含まない引用文例や、西暦 600 年以降の用例や、ギリシア語文例を表わす。

... 文例の文言の間に打たれている三つの点は、文脈の一部省略を表わす。

引用された原典本文中の括弧の種類と用法は以下の通りである。

< > 槍括弧は、補修部分を示す。例えば, *lux* Sp.1906, 10: INSCR. column. rostr. (CIL I² 25) 3 l<uci palam>

() 丸括弧は、碑文中の省略表記を可能な限り読解、追加した部分を示す。例えば, *ludus* Sp.1784, 15: FAST. ann. Iul. Vatic. April 12 (CIL I² p. 242) Cerial(es)

[] 角括弧は、除去されるべき部分を示す。例えば, *lux* Sp.1906, 18: VARRO. ling. 9, 60 qui -i natus Luci[li]us (この用法以外のものについては、上記の説明項目1を参照)

└ ┘ 鉤括弧が下方から指示している語句については、その直後に続く括弧内の注記が説明していることを示す。例えば, *lux* Sp.1906, 37: └pro -e┘ ponentes (*sic cod. Chig. addens pro sole quae uerba ceteri sola praebent;*)

見出し語の構成においては、さらに以下の記号が使用されている。

?ōceanicus 語頭の疑問符は、実在性の疑わしい語であることを示す。

† optu 文献学上の十字印は、伝承過程において誤写誤伝された部分を示す。

[ōcitās] 角括弧は、本辞典の記載から除去されている部分を示す。

(octagōnos) 丸括弧は、修補された語形を示す。

(これらについては上記 II B 1 参照; ^x 記号については上記説明項目2を参照)

4. 省略記法

-x, -es

見出し語には、容易に判読できる程度に簡略化された語尾が附されている。例えば *lux* の単数諸形は、-x, -is, -i, -em, -e, 複数形は -es, -um, -bus.

Housman ad l.

ある原典個所の解明のために引用されている近世現代の文献学者たちの注釈書や、最も基本的一般的研究は、ほとんどの場合、著者名だけが挙げられている。例えば, *lux* の場合, Sp.1912, 37 には, MANIL. 1, 187.....('phases' Pingraeus, *sed v. Housman ad l.*)

Hofmann Szantyr

とあり、同 Sp. 1905, 33 では、*Hofmann-Szantyr* という名前だけで、以下の表題の書物に言及している：J. B. Hofmann, *Lateinische Syntax und Stilistik, Neubearbeitet von A. Szantyr*, München 1965 (verbesserte Auflage 1972).

Leumann,
Gramm. 1977

その他の近現代の学問的著述は、理解に達するに足る、最小限の字句を用い、刊行年代の明らかな場合にはそれをも附記し、*L'année philologique* による検索を容易ならしめている。例えば、*lux* Sp. 1906, 5 の略記、*Leumann, Gramm. 1977* は、Manu Leumann, *Lateinische Laut- und Formenlehre*, München 1977 を表わしている。

説明文、項目標題などにおいては、以下の如き省略記法が頻繁に使われている（頻度の高いもののみ）。

<i>ad. l.</i>	ad locum
<i>al.</i>	(et) alia (p. 18 参照)
<i>a. 35</i>	anno 35 post Christum natum
<i>a. 35 a. Chr.</i>	anno 35 ante Christum natum
<i>apud ICTos</i>	apud iurisconsultos
<i>cf.</i>	confer, conferas, conferatur, sim.
<i>coll.</i>	collato, -a, -is.
<i>coni.</i>	coniecit, coniectura
<i>e.g. (ex. gr.)</i>	exempli gratia
<i>eqs.</i>	et quae sequuntur
<i>gr.</i>	graece
<i>i.</i>	id est
<i>i.q.</i>	idem (est) quod (p. 10 参照)
<i>i. univ.</i>	in universum
<i>om.</i>	omisit, omittitur, omisso, sim.
<i>q.e., q.s.</i>	qui, quae, quod est, qui, quae sunt
<i>sim.</i>	(et) similia, similiter
<i>var. l.</i>	varia lectio
<i>vol. VII 2,</i> <i>1904, 83</i>	Thesauri vol. VII pars altera Sp. 1904, l. 83
<i>in schedis nostris</i>	sc. archivi Thesauri

ロマンス語系諸言語の略記法

<i>cat.</i>		catalanice
<i>dalm.</i>		dalmatice
<i>francog.</i>		francogallice
dialecti:	<i>argot</i>	argot quae dicitur
	<i>biturig.</i>	Biturigum (Berry)
	<i>borbon.</i>	Borboniae (Bourbonnais)
	<i>burg.</i>	Burgundiae
	<i>camp.</i>	Campaniae (Champagne)
	<i>comit.</i>	comitatus Burgundionum (Franche-Comté)
	<i>loth.</i>	Lotharingiae
	<i>norm.</i>	Normandiae
	<i>pic.</i>	Picardiae
	<i>pict.</i>	Pictavorum (Poitou)
	<i>wall.</i>	Wallonum
<i>francoprov.</i>		francoprovincialiter (frankoprovenzalisch)
<i>hisp.</i>		hispanice
dialecti:	<i>arag.</i>	Aragoniae
	<i>astur.</i>	Asturiae
	<i>legion.</i>	Legionensium (León)
<i>it.</i>		italice
dialecti:	<i>abrut.</i>	Abrutii (Abruzzi)
	<i>aemil.</i>	Aemiliae (Emilia-Romagna)
	<i>apul.</i>	Apuliae
	<i>calabr.</i>	Calabriae
	<i>cors.</i>	Corsicae
	<i>langob. (alp.)</i>	Langobardiae (alpinae)
	<i>ligur.</i>	Liguriae
	<i>lucan.</i>	Lucaniae
	<i>march.</i>	Marchiae Anconitanae (Marche)

dialecti:	<i>neap.</i>	Neapolis (Napoli-Campania)
	<i>pedem.</i>	Pedemontii (Piemonte)
	<i>rom.</i>	Romae
	<i>sic.</i>	Siciliae
	<i>tusc.</i>	Tusciae (Toscana)
	<i>venet.</i>	Venetorum (Veneto)
	<i>umbr.</i>	Vmbriae
<i>port.</i>		portugallice
<i>prov.</i>		provincialiter (provenzalisch, okzitanisch)
dialecti:	<i>alvern.</i>	Alverniae (Auvergne)
	<i>aquitan.</i>	Aquitaniae celticae (Guyenne)
	<i>delph.</i>	Delphinatus (Dauphiné)
	<i>langued.</i>	Languedociae (Languedoc)
	<i>lemov.</i>	Lemovicum (Limousin)
<i>raet.</i>		raetice
dialecti:	<i>centr.</i>	centralis regionis
	<i>occ.</i>	occidentalis r. (Graubünden)
	<i>or.</i>	orientalis r. (Friuli)
<i>sard.</i>		sarde
dialecti:	<i>centr.</i>	centralis regionis (Logudoro)
	<i>mer.</i>	meridiana r. (Campidano)
	<i>sept.</i>	septentrionalis r. (Gallura)
<i>val.</i>		valachice (rumänisch)
<i>vasc.</i>		vasconice (gaskognisch).

ラエティア方言やサルディニア方言（上記参照）のように、地域的境界線が比較的に推定し易いと思われる場合には、位置の明確な地域を（centr., mer., occ., or., sept.）によって指示してある。その他については、それらの差違を省略して方言の種類に帰属せしめるに止めた。古代（vet.）あるいは中世（med.）に使われていた方言形は、今日使われている形態と区別されなくてはならないだろう。

また、本辞典において著者名のみで言及されている以下の著述をも参考にされたい。

Battisti-Alessio

C. Battisti-G. Alessio, *Dizionario etimologico italiano*. I-V. 1950-1957

Corominas	J. Corominas, <i>Diccionario crítico etimológico de la lengua castellana</i> . I-IV. 1954
Corominas-Pascual	J. Corominas-J. A. Pascual, <i>Dicc. crítico etim. castellano e hispanico</i> . I-V. 1980-1983
Faré, Postille	P. A. Faré, <i>Postille italiane al Roman. Etym. Wörterb.</i> di W. Meyer-Lübke, 1972
Machado	J. P. Machado, <i>Dicionario etimologico da lingua portuguesa</i> . I, II. 1953, 1959. (ed. tertia. I-V. 1977)
M.-L.	W. Meyer-Lübke, <i>Romanisches Etymologisches Wörterbuch</i> , ed. tertia. 1935
Wagner	M. L. Wagner, <i>Dizionario etimologico sardo</i> . I, II. 1960, 1962
Wartburg	W. von Wartburg, <i>Französisches Etymologisches Wörterbuch</i> . 1922 sqq.

本辞典においては、古代から連続的使用によってロマンス語系諸言語に保持されてきた語彙のみ、記述に附されており、それ以外を除いている。また、学術、技術の専門家たちがラテン語を復活させて使っている専門術語の類は含まれていないことを、最後にお断りしておきたい。

印欧語系諸言語略記法（ただし以下は、長年にわたるわれわれの慣習に基づくので、一般的略記法とは多少異同がある。また簡単に諒解される種類の、比較的特殊なものも幾つかは省略されている）:

alban. (alb.)	albanice
anglosax. (anglos., ags.)	anglosaxonice
aremor.	aremorice (i. bretonice)
armen. (arm.)	armeniace
avest. (av., med.)	avestice (medice)
boruss. (pruss. vet., pruthen.)	borussice
cambr. (cymr.)	cambrice
celt.	celtice
corn.	cornvallice
etrusc. (etr.)	etrusce
falisc. (fal.)	falisce
gall.	gallice

<i>germ.</i> (<i>german.</i>)	germanice
<i>got.</i> (<i>goth.</i>)	got(h)ice
<i>gr.</i>	graece
<i>hethit.</i>	hethitice
<i>hibern.</i> (<i>hib.</i>)	hibernice
<i>ind.</i> (<i>sanscr.</i>)	indice
<i>island.</i> (<i>isl.</i>)	islandice
<i>lett.</i>	lettice
<i>lituan.</i> (<i>lithuan., lit.</i>)	lituanice
<i>med.</i>	v. avest.
<i>osc.</i>	osce
<i>paelign.</i> (<i>pael.</i>)	paeligne
<i>polon.</i>	polonice
<i>pruss., pruthen.</i>	v. boruss.
<i>pun.</i>	punice
<i>russ.</i> (<i>ross.</i>)	russice
<i>sabin.</i> (<i>sab.</i>)	sabine
<i>sanscr.</i>	v. ind.
<i>slavon.</i> (<i>slav.</i>)	slavonice
<i>theod.</i> (<i>theodisc.</i>)	theodisce
<i>tochar.</i> (<i>toch.</i>)	tocharice
<i>umbr.</i>	umbrice
<i>vestin.</i>	vestine

cuiuslibet equi factum . . . naribus infunde. PLAC. med. 9, 18 rec. a lotium caninum, -um factum.

γ singularia: PLIN. nat. 16, 4 *Chauci* captum . . . manibus -um . . . siccantes, terra cibos et rigentia . . . viscera sua urunt. 34, 135 *di-phryges* fit et in Cypro ex -o cuiusdam specus arefacto prius, mox paulatim circumdatis sarmentis. MART. 3, 74, 4 (1 *psilothro* faciem levas et dropace calvam) non potes illos *ungues* resina Veneto nec resecare -o (*quae illis speciebus inesse videntur*).

3 -um, ex quo corpus humanum formatum esse dicitur (sc. a Prometheo vel sec. gen. 2, 7 formavit . . . deus hominem de limo terrae; *lo-ros*, quibus ipsa caro sim. significatur, separare nolimus; apud *Christi-nos* saepe cum contemptu dictum, cf. maxime l. 32; cum gen. explic. corporis, carnis l. 32. 35): CIC. Pis. 59 hic homullus ex argilla et -o fictus ([*Epicurus vel Epicureus add. codd. plerique, vix recte*]). MART. 10, 39, 4 ficta Prometheo diceris esse -o. IVV. 14, 35 quibus . . . meliore -o finxit praecordia Titan. LACT. inst. 2, 10, 7 hominem de -o [AMBR. in Luc. 1, 7]. al.). MART. 14, 182, 2 (*de sigillo gibberi*) ebrius haec fecit terris . . . monstra Prometheus: Saturnalicio lusit . . . -o (*aliter infra l. 59*). IVV. 6, 13 *primi homines* rupto robore nati compositivo -o (cf. PRVD. apoth. 858 creavit . . . manus domini corpus mortale -umque composuit digitis). IREN. 4, 39, 2 (4, 64, 2 H.) ab artificio . . . dei absconditur quod est in te -um. CENS. 4, 6 homines . . . Promethei molli -o esse formatos (LACT. inst. 2, 10, 12 de molli ac pingui -o. HIER. epist. 77, 6, 3 VVLG. Iob 33, 6. al.). LACT. inst. 2, 10, 5 hominem de -o a Prometheo factum (fictum *R. fort. recte*) esse (AMBR. in psalm. 43, 4, 2 HIER. epist. 79, 10 interpr. Iob 33, 6). POTAM. tract. 1 Journ. Theol. Stud. 19, 1918 p. 298, 8 ut nobis ipsis . . . opimus (optimus *codd.*) -i liquor in causa est. *ibid.* l. 10 ut inciperet *Lazarus* esse quod fuerat, -um scilicet (VVLG. Is. 64, 8 domine, pater noster es tu, nos vero -um *eqs.* cf. AMBR. in psalm. 118 serm. 10, 10, 2 [*ad animam*] non de terra, non de -o es. HIER. interpr. Iob 4, 19 et nos ex eodem -o sumus [*Vulg. qui terrenum habent fundamentum*]). AMBR. in psalm. 118 serm. 13, 19, 1 *gentes* ante in -um quoddam corporis huius videbantur infixae, voluptati corruptionis suae tamquam faeci et libidini inhaerentes. HIER. c. Ioh. 36 p. 389^A (*de resurrectione*) cum . . . -um carnis in testam fuerit excoctum (in psalm. 68 p. 57, 17 Avg. serm. 363, 2. PETR. CHRYS. serm. 161 p. 625^B versari in -o c. et limo corporis huius). PRVD. perist. 3, 92 membra coacta -o. CLAVD. 20, 496 (492 Prometheus . . . innexuit aethera limo) deteriore -o pravus quos edidit auctor *Epimetheus*. al.

B *laxius de qualibet materia molli umidaque vel de quibuslibet sordibus*: CATO agr. 37, 2 partem (carnem *Goujard dubitanter, sed haud inepte*) de nucleis succernito et in lacum coicito, eo aquam addito, permisceto rutro bene: inde -um circum oleas ablaqueatas addito. PRIAP. 83 (Tib. 2), 37 (*ad mentulam invitam*) simul . . . sonante merseis -o caput sc. in vagina immunda vetulae cuiusdam (cf. 30 araneosus obsidet forem situs; *vix huc trahendum* CE 955 v. sub II B). PLIN. nat. 28, 49 cardinibus ostiorum aceto adfusus (adfusus *codd.*) -um fronti inlitum capitis dolorem sedare (sim. MARCELL. med. 1, 65. cf. Ser. Samm. 484 pulvis . . . sub cardine raptus). PHILVM. med. 3 p. 141, 3 *nutrimenta* liquida . . . et non bene digesta per ventrem feruntur . . . et maxime distillatio -i sanguinei . . . efficitur (cf. p. 1901, 55. 1902, 77). GREG. M. moral. 3, 9 quid . . . est sanies corporis nisi -um? (*respicitur Iob 2, 8*).

II *imagines, comparationes, translationes (saepo in lusu verborum vel in proverbis, cf. Otto, Sprichw. n. 992-998):* A in univ.: 1 *respiciuntur potius sordes (apud Christianos accedunt gen. explic. passim; faecis, caeni l. 73. 79):* PLAVT. Aul. 230 ubi tecum coniunctus siem, ubi onus nequeam ferre pariter, iaceam ego asinus in -o (LEO M. epist. 34, 2 Conc. II 4 p. 17, 5 insipientiae). MIL. 325 ludis me . . . : tum mihi sunt manus inquinatae . . . , quia ludo -o (*aliter supra l. 18. cf. infra LACT. inst. 4, 17, 21*). PERSA 535 mi . . . eveniet, tali ut in -o (A, ludo BCD) haeream (AMBR. fug. saec. 8, 45 *saeculi. al.*; cf. vol. VI 3, 2494, 40 *sqq. nec non haesitare*: TER. Phorm. 780 in eodem -o haesitas, vorsuram solves [*inde saepius apud eccles., v. Otto, Sprichw. n. 994*]). HIER. c. Lucif. 11 p. 166^B. al. adhaerere: MVTIAN. Chrysost. hom. 20, 3 p. 363/4 -o et lateribus [*sec. exod. 1, 14, v. p. 1901, 79*]. inhaerere: v. l. 80). POEN. 158 lenone istoc Lyco . . . non -umst lutulentius. Pseud. 984 nunc homo in medio -ost (A, tuto est BCD), nomen nescit, haeret haec res. LVCL. 897 cum ipsi in -um descendant, cum alios detrahant. CIC. Verr. II 2, 191 extremam partem nominis, caudam illam Verrinam, tamquam in -o demersam esse in litura (*[ludit cum re p. 1901, 19 *sqq.* illustrata]*). LACT. inst. 7, 6, 2 animas . . . suavitatibus mortiferis tamquam -o caenove demerserunt. cf. HIER. in Is. 14, 23 p. 226^D divitiarum immersum -o). 4, 53 Verrem in -o volutatum totius corporis vestigiis invenimus (RVFIN. Orig. in lev. 11, 2 p. 452, 3 in eo -o, quo haeserint. CAES. AREL. serm. 116, 7 in -o luxuria. cf. *quae supra ad l. 70 monuimus et EVAGR. altero. p. 50, 9 in aqua -o mixta volutans sororem tuam tibi in coniugio copulas*). ITALIA psalm. 39, 3 (Sangerm. al. = VVLG.) eduxit me de lacu miseriae et de -o fecis (HIER. psalt. sec. Hebr. de -o caeni. GREG. M. in Ezech. 1, 9, 4 [*ad l.*] de -o pravitatis). 68, 15 (*ibid., sim. VVLG.*) erue me de -o, ut non inhaeream. LACT. inst. 4, 17, 21 -o . . . se oblinunt qui deos, id est -um terramque, venerantur (SALV. eccl. 2, 4 populos peccatorum sordentium -o oblitos). AMBR. Hel. 14, 51 periclitatur homo ebrius -um esse de corpore (sec. Basil. Migne gr. 31, 456^A *κινδυνεύεις . . . βόρβορος ελvai ἀντὶ ἀνθρώπων*).

HIER. epist. 18A, 2, 4 regnante peccato . . . in cinere versamur et sordibus, . . . pro solida petra -i opera sectamur, ut *Iudaei in Aegypto* (cf. p. 1901, 79 *sqq.*). 54, 11, 1 aurum in -o quaerere (98, 22, 1 a. et margaritas. 107, 12, 3. cf. SALV. eccl. 2, 37 quid est dignitas in indigno nisi ornamentum in -o?). adv. Rufin. 3, 14 p. 468^B si non dixisses . . . , utcumque de -o evaderes. PRVD. praef. 12 protervitas . . . foedavit iuvenem nequitiae sordibus ac -o. perist. 2, 247 istum libido . . . -o et cloacis inquinat. AVG. civ. 18, 35 p. 308, 10 D. ubi non sunt fluentia iustitiae, sed iniquitatis -um. serm. 21, 7 l. 218 -um, quo premeris (*i. divitias vanas*). LEO M. epist. 15 praef. 3 de omni terrenarum opinionum -o multiplicem sibi faeculentiam miscuerunt *haeretici*. SALV. gub. 3, 43 qui non se -o fornicationis involvat. 6, 43 in hoc turpitudinis -um plura convertere. 7, 16 quis . . . non in -o libidinis vixit? al. 2 *respicitur potius vilitas (augendi gratia accedit vilis l. 31 *sqq.*; opp. aurum saepe)*:

PETRON. 44, 10 annona pro -o erat (51, 6 aurum p. -o haberemus [67, 10 omnia. ISD. orig. 16, 16, 6 aurum]). HIER. in Is. 13, 17 ut . . . aurum argentumque contemnant et . . . opes p. -o reputent. vita Hilar. 22 p. 40^A aurum p. -o ducerent). ITALIA Iob 27, 16 (Lucif. reg. apost. 11 p. 63, 10; *sim. aliae vers.*) si collexerint aurum aut argentum tamquam -um (cf. VVLG. Zach. 9, 3 coacervavit argentum quasi humum et aurum ut -um platearum). 41, 21 (Vita Hil. Arel. 26) aurum reputat velut -um ([HIER. interpr. Iob aurum . . . est sicut -um, VVLG. sternit sibi a. quasi -um]. cf. sap. 7, 9 [Aug. c. Adim. 19; *sim. VVLG.*] tamquam -um aestimabitur argentum ad illam sapientiam. HIER. epist. 52, 10, 2 divitias -um putabimus. interpr. Iob 30, 19 aestimavit me sicut -um *eqs.* [VVLG. comparatus sum -o *eqs.*]). psalm. 17, 43 (Sangerm., *sim. aliae vers.*) comminuum illos ut pulverem ante faciem venti, ut -um platearum delebo eos (VVLG. II reg. 22, 43 comminuum eos. Is. 10, 6. *adde VVLG. Zach. supra*, NICET. *infra et cf. ITALIA Mich. 7, 10 [cod. 176. al.] sicut -um in via* [VVLG. -um p.]). HIER. epist. 4, 2, 1 (*sec. Iob 30, 19, v. supra*) ego cinis et vilissimi (-ma *var. l.*) pars -i et iam favilla (cf. VVLG. sap. 15, 10 cinis est cor eius . . . , et -o vilior vita illius. NICET. virg. laps. 2, 7 quae fulgebant ut aurum . . . , nunc vilior facta es -o platearum). VVLG. Is. 41, 25 adducet magistratus quasi -um et velut plastes conculcans humum.

3 *respicitur potius materies formanda*: PERSA 3, 23 (*homo educandus comparatur vasi fingendo*) percussa maligne respondet viridi non cocta fidelia limo; udum et molle -um es . . . acri fingendus sine fine rota.

B *obiurgando transfertur ad homines (cf. p. 1903, 59. 66. 81)*: PLAVT. Most. 1167 verberibus, -um, caedere pendens. PERSA 406 oh, -um lenonium, commixtum caeno sterculinum publicum, impure ego 414 possum te facere ut argentum accipias, -um? LVCL. 765 nil parvi ac pensi, uti littera (s) doceas -um. CIC. Pis. 62 o tenebrae, o -um, o sordes, o paterni generis oblite . . . ! CATVLL. 42, 13 o -um, lupanar, aut si perditus potest quid esse. CE 955 (*Pompeis*) hic ego nu(n) f)utue(i) formosa(m) fo(r)ma puella(m), laudata(m) a multis, set -us intus erat (*vix ad IB trahendum*). SVET. Tib. 57, 1 Theodorus Gadareus rhetor in obiurgando appellans eum *Tiberium puerum πῆλόν αἰματὶ πεπορκαμένον*, id est -um a sanguine maceratum, (*fortasse glossema*).

paronomasia: PLAVT. Poen. 158 non -umst lutulentius. *homoeoprophora*: CIC. Verr. II 2, 191 tamquam in . . . in litura. epist. frg. VI 5 W. -a et limum (PETR. CHRYS. serm. 161 p. 625^B). CATVLL. 42, 13 -um, lupanar. CAES. civ. 2, 9, 4 lateribus -oque (MARCELL. chron. II p. 96, 504. cf. CAES. civ. 2, 10, 5 l. -o. COLVM. 9, 1, 3 latere ac -o. ITALIA exod. 1, 14 [Lugd.] -o ac lateri. PS. PHILO antiq. 6, 2 in -o et latere. VEG. mil. 4, 19 -o sive l. al.). LACT. inst. 5, 8, 4 lapides aut -um (PALLAD. 1, 34, 4 -o et lapide).

deriv.: lutarius, lutensis, lutesco, 1. luteus, luticarius, lutina, 1. luto, lutosus, lutulentus.

compos.: deluto; lutifer, lutifex.

2. lūtum, -i n. [*orig. incertae. Sch.*] 1 *strictius de herba quadam vel de colore inde confecto sc. croceo vel rubenti*: VERG. ecl. 4, 44 ipse . . . aries iam suave rubenti murice, iam croceo mutabit vellera -o (SERV.: colore rubicundo, et est hypallage pro 'croco luteo', nam crocum lutei coloris est). CIRIS 317 Corycio . . . flammea -o (cf. p. 1893, 12. 1896, 81). PLIN. nat. 33, 87 *chrysocolla* quoque herba, quam -um appellant, tinguntur. 33, 91 luteam *chrysocollam* putant a -o herba dictam. NEMES. cyn. 319 hinc e paludibus mage puniceas pennas . . . sumes: namque illic sine fine greges florentibus alis invenies avium suavique rubescere -o *eqs.* 2 *latius*: a de pallore (cf. p. 1895, 81 *sqq.*): TIB. 1, 8, 52 non illi amanti sontica causa est, sed nimis -o (*Itali, luteo cett.*) corpora tingit amor (cf. Smith, comm. 1913 ad l.). b *de colore purpureo (vix huc trahas NEMES. sub I)*: CYPR. GALL. exod. 1324 quae Sidonio tinguntur vellera -o (Vulg. exod. 35, 6 hyacinthum, purpuram coccumque bis tinctum *eqs.*).

deriv.: 2. lūteus. lūtūsus v. lutosus. 1. lutus v. 1. lutum. 2. lūtus, (-ūs) m. a lavare. GLOSS. II 410, 30 πλῶσις -us (laut-cod. Harl., lot. ed. Stephani), lotura. exempla non exstant, nisi dubia p. 1069, 3 *sqq. allata huc referas. ad scripturam lut- conferas p. 1036, 54. 1043, 73.*

[*lutiſ non legitur nisi falsis var. II. CIC. ad Q. fr. 3, 7, 1 SOL. 47, 1 Iv. 3, 32.*]

*lux, -cis f. [*nomen e radice primaria, leuk-, quae multis linguis cognatis servatur, formatum; cf. ind. rác- f. ferē eiusdem notionis. Sch.*]

derivatur a lucere (luxi) GRAMM. suppl. 74, 31 (cf. PRISC. gramm. II 466, 23 *supra* p. 1692, 64sqg.), a luere SCHOL. Prud. cath. 2, 60 (cf. lumen). de script. et formis: luuci: LEX Bant. (CIL I² 582) 4 (sed luci 17, 24; *ibid.* haec iuxta haec sim.). nom. lucis: VITA Abr. 1 Rev. Bénéd. 50, 1938 p. 236, 23 quasi aliqua -is illic splenduit. dat. -ei: CATVLL. 55, 16 (Scaliger, -et cod.). ? -e: CIL II 676 Luce (-i legit Ponz) divinae. abl. -i: LVCR. 4, 235 in -i (cf. 232 in -e et v. Munro ad 1, 978. Bailey I p. 78). CE 525, 7. 651, 1. de locativo v. p. 1906, 5. per assimilationem CE 755, 2 -ae caelesti; per haplographiam *ibid.* 1823, 3 viam -i(s) secuta; parum constat de CIL VIII 24065 (= CE Engström 126) al luo 'ad -em', ubi alii intellegunt alluc(e)o (ad DON. p. 1906, 34sqg. frustra revocat Heraeus, Kl. Schr. 73, 2). inter nomina semper singularia (fere iuxta vocabulum q. e. pax): DON. gramm. IV 376, 27 CHAR. gramm. p. 33, 7 B. (cf. EXC. Bob. gramm. I 548, 7). DIOM. gramm. I 327, 20. SERV. gramm. IV 432, 22 sed legimus apud Sallustium 'paces' et -es' ('paces' spectat ad Iug. 31, 20 bella atque p., quem locum afferunt Cledon. gramm. V 42, 25 et POMP. *ibid.* 176, 21 [cf. 167, 5] haec 'pax', hae 'paces' non facit; haec -x', hae -es' non facit; utrumque tamen lectum est: habes in Sallustio 'b. a. p.' [formam -es non testatur, ita ut contextus aut mancus aut ineptus sit]. -es' est hist. frg. inc. 30; sed vide, ne ex analogia Sallustio vindicaverit SERV.). al. plur. -es, -bus apud poetas notione q. e. 'dies, diebus' passim inde a CARM. CIL I² 2662, 7 (a. 102), v. p. 1911, 26sqg.; notionibus variis EGNAT. carm. frg. 2, 2. CIC. Arat. series. MANIL. 1, 476, 5, 258, 512 (?). AVSON. 385, 12 p. 105 P. PRVD. ham. 93 DRAC. satisf. 245. in prosa: SALL. l. c. (?). APVL. mund. 16 p. 324 (de cometis). ARNOB. nat. 1, 2 ('dies'). gen. pl. deest; cf. CHAR. gramm. p. 178, 24 B. (ex Romano) '-ium' an '-um', addubitari etiam nunc ait Plinius (dub. serm. frg. p. 25, 4). NOT. Tir. 72, 43 -x. de genere fem. quamvis grammaticis constet, masc. temere veteribus vindicant DON. p. 1906, 37. 39 in explicanda locutione 'cum primo -i', sim. NON. p. 210, 10sqg.; ceterum masc. falso trad. LVCR. 2, 806 largo (OQ¹, larga cett. recte, v. Lachmann ad l.). ... -e; nihili est -o *supra* l. II, arcendum etiam PLAVT. Capt. 1008 -is ... tuendi copiam (v. Hofmann-Szantyr 374sq.). de mensura: MART. CAP. 3, 269 vox monosyllaba natura longa ... ut '-x' eqs. PRISO. gramm. II 323, 17. 466, 23. de notione: SEN. epist. 21, 2 quod interest inter splendorem et -em, cum haec certam originem habeat ac suam, ille niteat alieno, hoc eqs. (cf. AMBR. fid. 4, 8, 95 -x splendorem generat, non splendor -em. sim. saepe apud Christianos sec. Hebr. 1, 3). GLOSS. φῶς (cf. CHAR. gramm. p. 33, 7 et 49, 26 B.). φέρυγος. ἀδύη. φωτισμός. splendor, claritas. salus. interpretamenta scholastarum et doctrinas christianas v. *infra*. legitur inde a LEGE XII tab. (locat. -i), INSCR. column. rostr. (item, e supplemento), LEGE Bant. (item), PLAVTO, ENN., TER., in prosa extra titulos primum apud L. CRASS., RHET. Her., CIC.; frequentiam a. v. lumen vocabulis inter se collatis tractavimus. [dalm. loik; it. luce; sard. centr. luke, luge, mer. luži; rael. or. lus, occ. lūš, tūkš; prov. vet. lutz, lus, var. prov. vasc.; cat. lluu; hisp. luz; port. luz. cf. M.-L. 5190. Battisti-Alessio III 2275. Wagner II 41. Wartburg V 478sqg. Corominas III 152sq. Machado² II 1448. St.] [confunditur in codd. cum dux (CIC. Phil. 12, 25), lanx (MANIL. 4, 341; cf. p. 938, 26sqg.), laus (Ov. Pont. 4, 6, 9 -x cum duobus codicibus Burmannus, falso), lex (TERT. adv. Marc. 5, 19 p. 646, 6 -x trad., em. Ursinus), lis (PS. QUINT. decl. 17, 3 p. 303, 17 -e trad., em. Obrecht), lucus (CIRIS 397), vix (MORET. 13 -x trad., em. Vossius); ceterum traditur loco nondum sanato PLIN. nat. 4, 31, restituitur STAT. silv. 5, 3, 273.]

i. q. claritas lucendo effecta, φῶς (respondet in graecis, nisi alia adnotantur; -is virtutes celebrant CVRT. 8, 4, 8 naturale solacium. DRAC. laud. dei 1, 118sqg.; de ratione inter lumen et -x intercedente v. sub illa voce; distinguitur splendor l. 36):

CAPVT PRIVS: **proprie** (hic illic colore tropico, imprimis p. 1909, 40sqg.):

I generatim: A -x caelestis (collective: CIC. Arat. 459 Sagittipotens superas convivere -es institit i. caelum [gr. 673 ἀντέλλοι, cf. Buescu ad 185 superum ... lumina, ubi -n coni. Soubiran. item plur.: AVSON. 385, 12 p. 105 P. -es nocte dieque pares i. aequinoctia]. LVCR. 5, 303 solem, lunam stellasque ... -em iactare. 5, 779 SEN. nat. 1, 2, 2. APVL. met. 2, 5, 4 omnem ... -em mundi sideralis. al.): 1 dies, solis. determinationes, iuxta posita: CIC. Arat. 284 orbi quinque tributae nocturnae partes, supera tres -e dicantur ([gr. 509 περὶ τέλλεται ὕπου]. 364 [gr. 582 φάος tantum, GERM. 598 siderea]. cf. l. 65 et LVCAN. 6, 733 superna). Cael. 67 -x ... alia est solis, alia lychnorum (fin. 3, 45 opp. lumen lucernae. div. 1, 6 LVCR. 4, 185. 200. et saepius. cf. SEN. Oed. 545 -is et Phoebe. VVLG. Esth. 10, 6 -em solemque [11, 11]). LVCR. 4, 83 correpta -e diei (Liv. 31, 42, 7 insequentis. VAL. MAX. 5, 10, 3 unius. al. cf. LVCR. 6, 848 -e diurna [v. vol. V 1, 1640, 7sqg.]. Liv. 7, 36, 6 -e ac die [TAC. hist. 4, 64, 3 PLIN. paneg. 45, 2 PS. QUINT. decl. 5, 20 p. 107, 17 VITAE patr. Iurens. 137 M.]). Ov. met. 2, 35 (log. Phaethon) o -x iumens publica mundi, Phoebe pater ([παρ-όπτην intellegit Bömer coll. 4, 228 m. oculus, sed longius distare videntur exempla sub II quam sub lumen p. 1811, 60. 61sqg. allata]. CYPRI. epist. 6, 1 tenebras carceris lucidiores sole ipso et -e hac m. clariores. al.). 4, 169 siderea (cf. GERM. *supra*) qui temperat omnia -e, ... Solem. SEN.

Phaedr. 889 aetheriae (v. vol. I 1153, 41sqg.). CVRT. 5, 6, 13 -x ... et caelum (LVCAN. 8, 58. cf. p. 1908, 32 sq. et -x caeli: DAMAS. epigr. 2 [1 F.], 14 [II Cor. 12, 2 caelum]. 53 [51], 8 PRVD. psych. 639).

a vi originaria: α locutiones adverbiales (sing.):

① locat. -i (sec. vesperi sim., cf. Leumann, Gramm. 1977, 426sq. 431; fide caret forma -u l. 35 et e coniectura Muelleri VARRO ling. 5, 99):

② per se: ① nude i. q. interdiu: LEX XII tab. 8, 13 (Cic. Tull. 52 [47], cf. GELL. 11, 18, 8) furem occidere licet -i, si se telo defendit (-e Cic. *ibid.* 53 [48] et 55 [50] in enarratione, interdiu Gell. l. c. 7. al.). INSCR. column. rostr. (CIL I² 25) 3 l'uci palam (LEX Bant. [ibid. 582] 17 p. -i, in forum vorsus. 24 LEX VRSON. [ibid. 594] 81, 18. LEX colleg. aq. [CIL VI 10298] 3 <luci pal>am). LEX Bant. (l. c.) 4 in poplico (i. 'palam', v. Wagener, De locat. lat. usu, Diss. Ien. 1870, 33) -i. PLAVT. Cas. 786 (loco mutilo). MEN. 1005 hic in pacato oppido -i ... in via. ENN. ann. 431 si -i, si nox (i. noctu). ? AFRAN. com. 138 (loci Gronovius). RHET. Her. 4, 36, 48 (-e ld). CIC. ad Q. fr. 2, 6 (5), 3 -i eum (luceum var. l.) convenire. Phil. 12, 25 -i (-e n², duce l), ... in militari via, ... bene comitatum ... aggredi. VARRO ling. 9, 60 qui -i natus, Luci[l]ius (antea: mane natus ... Manius. in eadem re 6, 5 prima -e). ② cum attri-

buto generis indefiniti (CHAR. gramm. p. 264, 17 B. [ex Romano] Plautus in Amphitryone 'hoc -i'; ubi Sisenna 'quaecumque nomina e littera ablativo singulari terminantur, i littera finita adverbia fiunt, ut mani' [v. vol. VIII 276, 70sqg.]; varios tam veterum l. 34sqg. allatorum quam recentiorum errores refutavit Usener, Kl. Schr. I 258): PLAVT. Amph. 165 hoc -i (codd., Char.; opp. hoc noctis). Aul. 748 -i claro ... palam ([testatur Non., -e clara codd.]. COM. pall. inc. 70 [-e var. l.]. VARRO Men. 67. 238. 512 in foro medio -i c.). GELL. 2, 29, 14 (in fabula de cassita, ex Enn. sat. 21sqg.) primo -i ([P, prima -e cett.]. AVR. VIOT. Caes. 17, 10).

③ cum -i: c. -i simul: PLAVT. Merc. 255 mane c. -i (A?, -e P) s. Stich. 364. c. primo -i: PLAVT. Cist. 525. TER. Ad. 841 (A, c. p. -e A corr., c. prima -e cett.). ATTA com. 8 COMMENT. quaestor. Varro ling. 6, 92. CIC. off. 3, 112 ('haud dubie veterem quandam annalium scriptorem secutus' Wölfflin-Miodoński ad Bell. Afr. 95, 2; -i testari videtur Non. p. 210, 17, -is c, c. prima -e cett.). doctrinae grammaticorum: DON. Ter. l. c. 3 'c. p. -i (c. p. -u V, c. prima -ei C) ἀρχαῖος (Westerhovius, aposiopesis V et pars deteriorum, lacunam exhibet C); nam 'c. p. -i[?] veteres dicebant, lucum (-ium C), pro -e, ponentes (sic cod. Chig. addens pro sole, quae verba ceteri sola praebent; glossema del. Zwierlein, Terenzkommentar ... in Cod. Chig. 1970, 62sq.). 4 veteres masculino genere dicebant -em. SCHOL. Bemb. *ibid.* alterum dativi ca[us]us est, alterum genetivi.

④ abl. temp. -e: ① nude i. q. interdiu (de colore q. e. 'mane' v. *infra*; syn. interdiu, opp. noctu, nocte passim): CIC. S. Rosc. 56. Tull. bis (in enarranda LEGE XII tab., v. *supra*). Sest. 83 -e palam (off. 3, 93 -e p. in foro [CIL IV 3340 p. 413, 21]. VERG. Aen. 9, 153 LIV. 22, 24, 6 CVRT. 4, 13, 9 STAT. Theb. 8, 129 CENOTO de incarn. 68 AMM. 14, 1, 9. al. cf. CIC. Pis. 23 -e et [del. rec.] p. AMM. 24, 4, 21 -e ... ac p.). Vatin. 34 in foro, -e, inspectante populo Romano. Phil. 2, 76 (opp. tenebris ut MANIL. 2, 205). ? CAES. civ. 1, 67, 4 (coni. Ciacconius). VERG. Aen. 4, 186. PROP. 4, 7, 91 nocte vagae ferimur ...; -e iubent leges Lethaea ad stagna reverti (fere i. q. prima -e, mane. item [exempla certiora]: LIV. 8, 38, 6 -e demum [TAC. ann. 1, 39, 5. cf. PERGR. Aeth. 24, 2 iam -e]. MELA 1, 39 media nocte ... -e ... ut sol surgit. STAT. Theb. 3, 49 -e patent caedes nocturnae). Ov. epist. 13, 102sq. ars 1, 247 -e ... caelo-

que ... aperto (cf. SIL. 17, 116 non -e ... nec claro ... die nec sole tuente). met. quinquies. LIV. 22, 10, 6 (rogatur populus) si quis nocte sive -e ... faxit. al.; de plur. v. p. 1911, 31. ② cum adi., partic.: prima: p. -e (NOT. Tir. 72, 58): CIC. Sull. 52 SVLP. RVE. Cic. fam. 4, 12, 2 VARRO ling. 6, 5. CAES. 16 locis. BELL. Afr. 63, 5, 95, 2 (cum p. -e var. l.). Alex. 73, 2, 74, 1. LIV. amplius 40 locis (17 in prima dec.). MANIL. 5, 696 VAL. MAX. 5, 4, 3 CELS. 4, 32, 1 SEN. dial. 4, 7, 3 epist. 71, 23. CVRT. series. FRONTIN. strat. septies. IVV. 11, 186 SVET. Claud. 34, 2. al.

-e p. (NOT. Tir. 72, 57): CAES. Gall. 5, 49, 5 civ. 3, 28, 6 LIV. ca. 30 locis (5 in prima dec.). ? SEN. epist. 122, 1 (coni. Pincianus). ASCON. Mil. p. 31, 27. TAC. hist. ter. SVET. Galba 18, 2. varia: CIC. carm. frg. 11 (de consul.), 24 -e serenanti (cf. serena: VERG. Aen. 5, 105. SIL. 13, 17 seq. liquida ... sub aethra. TAC. hist. 4, 53, 2). LVCR. 6, 848 -e diurna (opp. nocturno tempore. cf. *ibid.* 873 in -e d.). BELL. Hisp. 42, 4 -e clara ... in medio foro (LIV. 23, 10, 7 f. m., -e c., videntibus vobis. CVRT. 7, 11, 21 nondum satis c. -e. COLVM. 7, 12, 4 opp. noctu. PETRON. 62, 12 [?, seq. corruptela]. 79, 4 PLIN. nat. 11, 143. et saepe; superl.: APVL. met. 3, 29, 2 flor. 14, 6). SALL. hist. frg. III 96 C 4 multa iam -e (TAC. hist. 5, 22, 3). VERG. Aen. 10, 257 matura iam -e. Ov. met. 13, 592 nova (SEN. Med. 101 LVCAN. 4, 32). NVX 147 media ... -e palamque. LIV. 9, 42, 7 vixdum -e certa (10, 32, 7 et saepius apud eundem). 22, 6, 9 liquida iam -e. 24, 21, 7 iam obscura -e (CVRT. 4, 16, 25). 24, 47, 1 propinqua (LVCAN. 5, 678. PLIN. nat. 2, 195 opp. interdiu. VAL. FL. 3, 214 TAC. Agr. 26, 1). APVL. met. 9, 9, 5 adhuc -e dubia (LACT. mort. pers. 12, 2 AMM. 18, 8, 4. al.). 11, 22, 4 necdum satis -e lucida. TERT. ieiun. 12 p. 291, 4 summa. al. ③ -e diei: HEGES. 2, 6, 3 -e d. atque in medio urbis (gr. 2, 254 μεθ' ἡμέραν κτλ., Ps. Rufin. die claro eqs.). BENED. reg. 41, 8 ut ... -e adhuc d. omnia consummentur (*ibid.* 9 -e, var. l. cum -e).

④ iuncturae praepositionales: a (...) -e: a prima -e (-e [Ehlers])

p. PRVD.): CAES. Gall. 5, 35, 5 civ. 1, 81, 3 LIV. 39, 4, 10. 40, 50, 2 COLVM. 11, 1, 17 MART. 9, 92, 5. 12, 26 (29), 3 LEX met. Vipasc. (CIL II 5181) 20. RVFIN. hist. 5, 1, 18 (gr. ἀπὸ ἐωθινῆς). PRVD. cath. 2, 108.
a -e: PLIN. nat. 2, 188. ad -em: usque ad (ad u. AMM. utrobique) -em: PLAVT. Men. 928 TER. Eun. 278. LIV. 5, 39, 6 u. ad -em alteram (c. adi. ut: AMM. 19, 2, 13 obscuram. 26, 1, 9 claram. VVLG. I reg. 25, 34 matutinam). 9, 12, 5. al. ITALIA iud. 16, 2 (Lugd.) u. ad -em mane (gr. ἕως φωτός πρῶτῃ, Vulg. facto mane). act. 20, 11 (cod. d. al., VVLG. var. l.; gr. ἀπὸ ἀνῆλθῃς). al. per se: CIC. div. 1, 59 ad -em ... dormi[ta]re (i. usque ad, item: LIV. 2, 64, 10. al. PHAEDR. app. 18, 9 APVL. met. 2, 24, 5). SVET. Iul. 31, 2 ad (i. sub, prope) -em duce reperto ... evasit. TERT. adv. Val. 3 p. 179, 16 columba est in editis semper et apertis et ad -em (fere i. q. in -e; opp. lucifuga bestia i. serpens). ante -em (vulgariter -e ITALIA II par. 20, 20 [Complut.; gr. πρῶτῃ, Vulg. mane]. al.; ad sensum cf. CENS. 24, 2 [inter conticinium et diluculum]. SYNON. Cic. p. 434, 10 mane ... a. -em. GLOSS. ὁρθρον. ἑωθεν. al.): PLAVT. Amph. 602 dudum a. -em (699 Poen. 318. cf. CIC. inv. 2, 14 multo. Catil. 1, 9 paulo [SVLP. RVF. Cic. fam. 4, 12, 2. LIV. 1, 51, 3 et saepius apud eundem]. Sest. 75 aliquanto [LIV. 10, 20, 8. 31, 24, 7]. de orat. 2, 259 bene. ITALIA Luc. 24, 1 [cod. a] a. -em valde [gr. ὁρθρον βαθέως, Vulg. v. diluculo]. 639 Cas. 487 Trin. 885 TVRPIL. com. 50 VARRO Men. 161. Cic. Sest. 78 bis. Phil. 3, 11 leg. 2, 66. div. 2, 57 (ex Democrito). et saepe in epistulis. CAES. Gall. 6, 7, 9. saepius apud LIV. et deinde passim; cum partic.: AMM. 28, 2, 13 a. revolutam -em. pro subst. (cf. antelucanum): ITALIA (= VVLG.) IV Esdr. 7, 42 Weber neque meridiem neque noctem neque a. -em ... neque claritatem neque -em. circa -em: SEN. nat. 5, 8, 2 (opp. prima noctis parte). epist. 122, 16 (verba Pedonis Albinovani; ibid. c. horam tertiam noctis sim.). SVET. Otho 11, 2. MAX. TAVR. serm. 30, 2 M. (opp. c. vesperum). cum -e: cum adi., partic.: CIC. Att. 4, 3, 4 c. prima -e (VARRO rust. 2, 2, 10. SALL. hist. frg. III 98 D 13 <p>rima c. -e). cf. p. 1906, 31. 34. 59). Ps. QVINT. decl. 10, 6 p. 193, 25 certa. IUVENC. 2, 9 exorta. CAEL. AVR. chron. 2, 1, 60 diurna. nude (dub. p. 1912, 42): PANEG. 2, 35, 2 (opp. praecipiti die). LAMPR. Heliog. 25, 1 (opp. nocte). PEREGR. Aeth. 25, 1. DICT. 2, 42 c. -e simul (3, 13, 4, 5 s. c. -e [4, 16. 20]. 5, 5). de -e: HOR. epist. 1, 14, 34 bibulum ... media de (i. a) -e Falerni. de -e vigilare pro gr. ὁρῶντες (fere i. q. -e, mane; cf. l. 53 et GLOSS. II 386, 40 d. -e v.); ITALIA psalm. 62, 2 (Veron. al. = VVLG.; HIER. psalt. sec. Hebr. de -e consurgam). cant. 7, 12 (Epiph. in cant. p. 83; cod. 169 diluculo, Vulg. mane surgamus). sap. 6, 15 (Aug. spec. 22 = VVLG.). Luc. 21, 38 (cod. a, Vulg. manebat). in -em (vulgariter -e l. 48): i. sub -em, -e crescente: LVCR. 6, 875 in -em ... rarescit umor. SEN. Ag. 576 cecidit in -em furor nocturnus. i. usque ad -em (cf. p. 1908, 53; accedit usque PETRON., ITALIA, PEREGR. Aeth.): HOR. epist. 1, 18, 34 dormiet (cf. CVRT. 7, 11, 18 quieverunt). OV. Pont. 1, 5, 45 marcescere vino (cf. PETRON. 73, 6 usque in -em cenemus [MART. 7, 10, 5]. MART. 1, 28, 2 bibit. LAMPR. Comm. 3, 7 potaret). ITALIA act. 20, 11 (cod. e al. = VVLG.) usque in -em (cf. l. 8). PEREGR. Aeth. 24, 1 ex ea hora usque in -e (u. ad -em septies in eodem opusculo). PAVL. NOL. carm. 14, 50 in -em a nocte. in -e: LVCR. 2, 56 (= 3, 88, 6, 36) opp. in tenebris (4, 232 in -e et claro candore. al. ITALIA Matth. 10, 27 [-em var. l.] v. p. 1812, 59). OV. am. 3, 14, 7 opp. nocte (18 clam ... palam). CYPR. domin. orat. 6 p. 294, 13 n. quasi in -e [-em S, lumine W] vigilemus). SEN. nat. 6, 1, 9 in -e ... et in aperto. PLIN. nat. 10, 35. al. cum adi., partic.: LVCR. 6, 873 in -e diurna (cf. 848 -e d.). VAL. MAX. 2, 7, 6 clarissima (MART. 11, 22, 8 clara). 7, 3, 9 maxima. SEN. Thy. 679 media (benef. 5, 6, 3 regem in -e m. errantem [v. Otto, Sprichw. n. 1663]. TAC. dial. 34, 3). epist. 86, 11 multa. LVCAN. 10, 431 aperta. STAT. Theb. 3, 160 patenti. al. -em intra: TAC. ann. 4, 48, 1. prope -e(m): SVET. Claud. 44, 3 excruciatum ... nocte tota defecisse p. -em. PEREGR. Aeth. 25, 6 p. -e, ante tamen quam -x fiat. sub -em (nude praeter HIRT.): CAES. Gall. 7, 61, 3, 7, 83, 7. HIRT. Gall. 8, 35, 4 s. ipsam -em. VERG. georg. 1, 445 (Arat. 866 ἡδὴ πρὸς). 3, 402 LIV. 9, 25, 7. al. (restituitur ex -e 25, 24, 7. 42, 64, 8). GERM. frg. 4, 51 SIL. 8, 124. 13, 406 PRVD. psych. 317. sub -e (cf. p. 1912, 11. 32): cum adi. sim.: VERG. georg. 4, 490 -e s. ipsa. VAL. FL. 2, 587 prima (CLAUD. rapt. Pros. 3, 232). STAT. Theb. 2, 318 per noctem ac -e s. omni. 8, 272 parata. silv. 3, 1, 134 rosea. AVIEN. orb. terr. 365 eoa (Dionys. periegr. 243 ἐν ἡῶ). AVSON. 325, 5 p. 110 P. maligna [sec. VERG. Aen. 6, 270 lunae]. cf. 8 nebuloso lumine). 369, 29 p. 96 P. plena. PRVD. cath. 3, 88 occidua. nude: HOR. ars 363 (361 ut pictura poesis) haec amat obscurum, volet haec s. -e videri (cf. Ps. Long. de sublim. 3, 1 πρὸς ἀνῆλθῃς). OV. met. 1, 494 STAT. Theb. 2, 77. DRAC. laud. dei 2, 7 stellae s. -e latent, sub nocte refugent. et saepius apud eundem. subante -em: ITALIA act. 5, 21 (cod. d; gr. ὅπῃ τὸν ὁρθρον, cod. g al. sub -e, Vulg. diluculo). ultra -em: SVET. Aug. 78, 2 somnum producebat ... u. primam saepe -em.
⑤ pendet gen. -is (omittuntur circumscriptiones orientis vel occidentis): a subst.: SALL. Iug. 91, 3 multo ante -is adventum (OPTAT. 6, 8). HOR. epist. 2, 2, 185 -is ab ortu (OV. met. 15, 619. GELL. 2, 1, 2 summo. al. cf. LIV. 27, 15, 19 sub ortum [CVRT. 4, 7, 22, 4, 10, 9]. CVRT. 5, 3, 7 circa -is o. OPT. PORF. carm. 27, 15 eoo -is ... sub ortu. SYNON. Cic. p. 434, 9 ortu). LIV. 32, 25, 5 -is principio (39, 30, 9 DICT. 2, 45. al. cf. AMM. 17, 2, 3 ad usque -is p.). CVRT. 5, 10, 12 sub -is exortum (v. vol. V 2, 1590, 47 sqq.). VAL. FL. 3, 48 -is ab horis (ad

oris cod.). HOMER. 736 primae sub tempore (-a var. l.) -is (CAEL. AVR. acut. 2, 6, 27 primo t.). APVL. met. 2, 17, 5 ad confinia -is usque (AMM. 19, 6, 11 prope [al.]). PALLAD. 12, 13, 4 sub -is initio (DICT. 5, 4 initio [principio R. 5, 10 AMM. 16, 8, 10]. AMM. 20, 7, 5 ante alterius -is i.). AVIEN. Arat. 1620 -is in occasu. AMM. 16, 12, 12 primo -is ... exordio (24, 2, 5. cf. 20, 6, 3 matutinae -is e. 21, 12, 12 -is e. [CIL IX 5274]. 24, 8, 5 cum -is e.). 25, 2, 7 ante -is primitias. VVLG. sap. 16, 28 ad orientem (ortum var. l.) -is (gr. πρὸς ἀνατολὴν φωτός). PRVD. c. Symm. 2 praef. 3 -is ... sub exitu. ⑥ ab adi. n. pro subst.: STAT. Theb. 4, 439 -is adhuc medio (media dett.; -e sub occidua Damsté, sed cf. vol. VIII 587, 31. 75 sqq.) solaque in nocte. TAC. hist. 4, 50, 1 obscuro adhuc coeptae -is (cf. ann. 2, 39, 4 o. diei). AVSON. 392, 9 p. 255 P. crepero sub -is eoa. SYMM. epist. 2, 48, 1 primo -is (MACR. Sat. 1, 5, 11 a p. -is in cenae tempus). PAVL. NOL. carm. 31, 225 in aperto -is (226 lumine).
β in univ. (poetice per plur. [aliter p. 1905, 65]: EGNAT. carm. frg. 2, 2 Phoebe pulsa loco cessit concedens -bus altis. DRAC. satisf. 245 sol ad solitas itque redditque plagas ac recipit facies priscas -esque resumit): ① strictius: A specimina varia: PLAVT. Amph. 547 ut mortales inlucescat dies -e clara et candida. ENN. ann. 473 semianimes ... micant oculi -emque requirunt (inde VARRO At. carm. frg. 11. cf. VERG. Aen. 4, 692 oculis ... errantibus alto quiesivit caelo -em). 600 equi Solis fundunt ... -em (VERG. Aen. 12, 115 efflant. SIL. 12, 508 spirantes. cf. STAT. Theb. 2, 121 -is equi). TER. Heo. 852 (adulescens ad servum, qui nuntium bonum attulit) qui ab orco mortuorum me reducem in -em feceris (temere SCHOL.: in laetitiam. opp. inferi ut: LVCR. 3, 1011 -is egestas in Tartaro. VERG. georg. 3, 551. HYG. Gell. 10, 16, 13 si Hercules ... in -em ad superos eduxerit Thesela. al.). CIC. Arat. 345 si adiment -em ... nubes (cf. OV. epist. 13, 23 -x ... tecum abiit sc. languore. LIV. 4, 33, 8 pulvis ... mixtus ... fumo -em ex oculis ... aufert [LVCAN. 8, 58 obvia nox ... caelum -emque tenebris abstulit Corneliae languidae. inde CORIPP. Ioh. 7, 158 caelum ... tenebris eripuit cum -e dolor]. PHAEDR. app. 14, 18 nocte nimbis orta -x rapitur oculis. sim. saepe. plenius: LIV. 10, 32, 6 ut -is usum eriperet nebula ... prospectu ... adempto). nat. deor. 1, 28 (Parmenid. 28 A 37 D.-Kr.) -is orbem, qui cingit caelum. 2, 95 (Aristot. frg. 12 R.) quod is sol diem efficeret toto caelo -e diffusa. saepius apud eundem et deinde passim.
② cum respectu temporis matutini (cf. VICTORIN. POETOV. in apoc. 2, 4 -em ... id est diei initium. sunt, quae transeant in censum diei, v. sub c): ENN. ann. 90 candida se radiis dedit icta foras -x (92 aureus exortur sol. cf. VERG. Aen. 1, 306 ut primum -x alma data est). RHET. Her. 4, 36, 48 (inter exempla licentiae) -i noctem, nocte -em (diem l.) expectatis (LIV. 7, 35, 10. 10, 43, 12 expectando timendoque. al. cf. LIV. 7, 36, 6 opperiamur [v. vol. IX 2, 748, 53 sq.]). CIC. Tull. 21 nocte, iam fere cum -x adpropinquaret (v. vol. II 315, 46 sq.; cf. VERG. Aen. 9, 355 propinquat). Cato 49 quotiens illum -x noctu aliqui describere ingresum, quotiens nox oppressit, cum mane coepisset (HIRT. Gall. 8, 14, 2 oppressi -e. LIV. 9, 30, 9. al.). CATVLL. 50, 12 ut lecto versarer cupiens videre -em. CAES. Gall. 7, 82, 2 cum -x appeteret [appareret var. l.]. LIV. 10, 20, 9. CVRT. ter. SALL. Iug. 99, 1 ubi -x adventabat (cf. MORET. 4 venturae ... -is [al.]). VERG. Aen. 4, 586 regina ... ut primam (primam M, cf. l. 41) albescere -em vidit (LIV. 5, 28, 12. al. GRATT. 223 SEN. Thy. 817. al.). 9, 338 si ... acquasset nocti ludum in -emque tulisset (HOR. carm. 3, 8, 15 lucernas perfer. SEN. nat. 4, 13, 6 cenis usque in -em perductis. epist. 101, 3 spiritum traxit. CVRT. 8, 6, 14 convivium extraheret [cf. SVET. Iul. 52, 1 convivia in primam -em ... protraxit]. SIL. 7, 330 proelia differ [Avg. c. acad. 1, 4, 10 p. 11, 30 usque in crastinam -em]. adverbialiter p. 1907, 43). al. CIRIS 349 postera -x (paulo aliter p. 1911, 82) ubi ... diem ... quatiebat. Prop. 4, 3, 32 -is ... auctores ... aves sc. gallos ([v. vol. II 1440, 72; vix de avibus concinentibus intellegendum]. OV. fast. 2, 767 -is praenuntius ales. MART. 14, 223, 2 cristatae ... -is aves. al.). OV. met. 3, 149 altera -em cum ... Aurora reducet. 15, 664 somni ... fugam -x alma secuta est (cf. LIV. 5, 42, 6 nec tranquillior nox diem ... excepit; -x deinde noctem inquieta[m] insecuta est). al. abl. absol.: CATVLL. 64, 376 orienti -e (CVRT. 3, 8, 23 oriente [GELL. 2, 29, 8. al.]. cf. CAES. Gall. 5, 8, 2 orta [LIV. 2, 51, 7 postero die -e o. al. CVRT. 4, 13, 17 TAC. ann. 13, 21, 1. et saepius]). SEN. Herc. f. 127 -e renata (cf. VAL. FL. 5, 328 reducta. Iuv. 6, 312 reversa). TAC. ann. 1, 65, 3 coepta -e (3, 15, 3. 15, 55, 1. cf. DICT. 5, 12 occipiente. AMM. 31, 15, 2 coeptante. BENED. reg. 8, 4 incipiente). 4, 51, 3 adpetente iam -e (AMM. 20, 7, 6 a. postridie -e). APVL. met. 5, 6, 10 proxumante. al. ③ de sede beatorum: CIC. Tuso. 1, 74 vir sapiens laetus ex his tenebris in -em illam excesserit (71 in caelum ... escendere. div. 1, 47 [verba Callani Indi] discessum e vita, cum ... in -em animus excesserit). SEN. dial. 6, 25, 2 parens tuus apud felices animas nepotem suum ... adplicat sibi nova -e gaudentem. 12(11), 9, 8 non perdidit -em frater tuus, sed securiorem sortitus est (antea: fruitur nunc aperto ... caelo). epist. 102, 28 -x undique clara (seg. totam -em, divina -x). TERT. anim. 53, 6 anima erumpit in apertum ad meram et puram et suam -em (cf. p. 1913, 79). OPT. PORF. carm. 24, 3 (ad Christum) fidelibus ignea templa supremi annuis esse poli, pia -is regna paternae. PRVD. ham. 965 -x immensa (antea: beata in regione). GENNAD. dogm. 62 ut ... in beatitudinis -e persisterent angeli (SACR. Leon. 1155). al.

① *latius de qualibet claritate ita dictum, ut potissimum -x caelestis intellegatur:* A *specimina varia:* LVCR. 2, 795 nequeunt sine -e colores esse eqs. (cf. 796 [l. 80] et s. v. lumen). 4, 380 quocumque loco sit -x atque umbra (381 lumina). al. VARRO ling. 6, 79 ('lucere') -e dissolvuntur tenebrae (deinde: -em diurnam amissam). CELS. 3, 4, 2 Asclepiades convellendas... vires aegri putavit -e eqs. (ibid. 4 seq. interdiu). 3, 18, 5 (syn. lumine). SEN. benef. 3, 1, 5 vitiosi oculi sunt, qui -em reformidant. al. B *prodigia, miracula* (de VERG. Aen. 7, 142 parum constat, cf. quae sub 3 monuimus): VERG. Aen. 9, 110 nova -x oculis offulsit et ingens visus ab Aurora caelum transcurrere nimbus eqs. LIV. 28, 11, 3 nocte Fregellis -em obortam (cf. 32, 29, 2. PLIN. nat. 1, 2, 33 [2, 100 lumen]). LVCAN. 2, 79 Cimber viderat immensam tenebroso in carcere Marii -em. in adventu numinum (aliter p. 1913, 73): VERG. Aen. 2, 590 pura per noctem in -e refulsit Venus ([SERV.: in nimbo, qui cum numinibus semper est. sed similiter Aeneas nube scissa manifestus describitur 1, 588]. Ov. fast. 6, 252 caelestia numina [i. Vestam] sensi laetate purpurea -e r. humus. STAT. Theb. 5, 267 [265 sub nocte] multa subitus cum -er. Bacchus). SIL. 13, 640 -e corusca (coruscas Ch, unde coruscans Heinsius, coruscum Lefebure)... vidi... Iovem. STAT. silv. 3, 3, 85 -x alta domum praecelsaque... intravit Fortuna. ITALA act. 22, 6 (cod. e = VVLG.; item 22, 11 cod. d et 26, 13 cod. g) de caelo circumfult -x copiosa circum me (cod. g lumen ut 22, 9 omnes, ceteris locis plurimi). PANEG. 11, 10, 4 ut primum... vestrum (sc. imperatoris, cf. p. 1913, 3) numen effulsit, tota Italia clarior -x diffusa, omnibus... dubitatio iniecta est, quinam de(i)... orientur.

② *peculiariter in locutionibus sensum claritatis exaggerantibus:* A -e lucere: PLAVT. Curc. 182 hoc... haud multo post -e lucebit. B *abl. compar.:* -e clarior, clarius (adv.): CIC. Verr. II 2, 186 quod erit vobis -e clarius. Catil. 1, 6. Cael. 22 -e omni (AVG. conf. 9, 1, 1). Mil. 6 hac -e (AVG. serm. 85, 1). Tusc. 1, 90. div. 1, 6 solis -e. VAL. MAX. 9, 15 ext. 2 QVINT. decl. 325 p. 278, 16. 333 p. 313, 26 -e ipsa (TERT. adv. Marc. 4, 1 p. 424, 10 manifestus et -e i. clarius [sim. OPTAT. 2, 5 p. 42, 6]. ARNOB. nat. 1, 54 aperta res... et -e i., quemadmodum dicitur, clarius). TERT. resurr. 20 p. 52, 17. al. varia: APVL. apol. 83, 6 -e inlustrius. IVVENC. 2, 669 manifestior omni -e (HIER. epist. 30, 10). CLAVD. MAM. anim. 1, 3 p. 27, 18 -e liquidior (2, 3 p. 107, 18). GREG. Tvr. Franc. 7, 1 p. 325, 11 omne -e lucidior (seq. naturali -e splendidus. antea: -e ista clariorem).

B *cum acumine dictum (sing.; sensum -is caelestis plus minusve servari apparet):* a in circumscribendo statu animantium vel rerum publico, aperto, libero sim. (immiscetur color gloriae l. 70. 73, cf. p. 1915, 20 sqq.; disertius -x libertatis CIC. Verr. II 5, 160 Rab. perd. 13 ARNOB. nat. 2, 77. CE 89, 7 [log. libertinus. cf. libertas et -x: LIV. 6, 17, 2. 7, 30, 23. libera -x: SEN. epist. 65, 17 Cod. Theod. 9, 16, 2], rei publicae CIC. leg. agr. 2, 71 QVINT. inst. 1, 2, 18 [cf. publica -x: Ov. p. 1905, 80. Ps. QVINT. decl. 10, 9 p. 197, 2 AVG. civ. 8, 19 p. 348, 27 D.], veritatis [i. rerum] CIC. de orat. 1, 157, 2, 36, fori QVINT. inst. 12, 2, 8 GELL. 13, 13, 1. al. [similia v. infra]): PLAVT. Capt. 1008 (log. Tyndarus lapidinis relicti ad Hegionem) mi item ut parentes -is das tuendi copiam (opp. 730 sub terra). Truc. 574 meretrix adolescentem intulit in pauperiem: privabit bonis, -e, honore atque amicis. L. CRASS. or. frg. (45 M.) Cic. de orat. 2, 226 tu -em aspicere audes? tu hos intueri? tu in foro, tu in urbe, tu in civium esse conspectu? (Sest. 20. 53 forum, ... curiam, ... -em. har. resp. 49 -em non a., carere publico. al. cf. RHET. Her. 4, 13, 19 conspiciere. LIV. 6, 14, 7 videre -em, forum, civium ora. sim. saepius). CIC. carm. frg. 22, 18 qui -i ediderat genitor Saturnius, idem abdidit draconem (Hom. B 318 ἐργον, cf. 309 ἥκε πόσινδε. sim.: VERG. Aen. 2, 471 in -em coluber... convolvit... terga arduus ad solem). Verr. II 5, 23 a libero spiritu atque a communi -e seclusum supplicium. 5, 28 mulieres castiores -em conventumque vitabant (Sull. 74 aspectum -emque. TAC. hist. 4, 72, 3. cf. CIC. Phil. 3, 24 vitatio oculorum -is, urbis, fori). Manil. 7 se non... Cappadociae latebris occultare... sed... in vestris vectigalibus, hoc est in Asiae -e, versari (Planc. 42 opp. tenebris. al.). Arch. 12 nihil... in aspectum -emque proferre (de orat. 1, 157, 162. parad. 4 in -em, id est in forum. HOR. epist. 2, 2, 116 LIV. 9, 11, 12. al.). Vatin. 2 congressu, ... aditu, ... suffragio, ... civitate, ... -e dignum (Pis. 3 SEN. epist. 77, 17. cf. CIC. Tusc. 3, 26 indignum [SEN. benef. 1, 1, 11]). Pis. 57 est animi -em splendoremque fugientis, iustam gloriam triumphis... repudiare (Att. 3, 19, 1 syn. celebratas. Ov. met. 2, 594 conspectum -emque. PLIN. nat. 8, 168, 11, 99. al. cf. FRONTO p. 145, 7 v. d. H. [p. 151 N.] fugitabat). Brut. 32 Isocrates forensi -e caruit intraque parietis aluit... gloriam (LIV. 22, 61, 9 ut... non foro solum..., sed prope -e ac publico caruerint sc. notis ignominis confecti, aerarii facti). ad Q. fr. 1, 1, 9 in -e Asiae, in oculis... provinciae atque in auribus... nationum esse positam virtutem (opp. latere in tenebris eqs.). Ov. trist. 5, 9, 24 haec meus... poneret in multa -e videnda labor. VVLG. sap. 6, 24 in -em [gr. εἰς τὸ ἐπαρῆς]). al. CATVLL. 55, 16 (2 demones, ubi sint tuae tenebrae) ubi sis futurus, ... crede -ei. LVCR. 2, 796 neque in -em existunt primordia rerum. 4, 1189 celata protrahere in -em (SEN. epist. 90, 34 LACT. inst. 4, 27, 18. cf. LIV. 6, 17, 2 extrahentem [v. vol. V 2, 2064, 19 sqq. 56]). MANIL. 5, 412 trahet). VERG. Aen. 5, 678 mulieres silvas... et... saxa petunt; piget incepti -isque. LIV. 4, 3, 8 (2 quam indignos ducerent eos, qui una secum

urbe... viveretis) -is vobis huius partem, si liceat, adimant. 7, 4, 4 quod filium... foro, -e, congressu aequalium prohibitum in opus servile (sc. rusticum)... dederit. et saepe. peculiariter (in rebus sacris): PAUL. FEST. p. 119 -em facere dicuntur Saturno sacrificantes, id est capita detegere.

B in circumscribenda vita (distinctius LVCR. 3, 80 vitae... odium -isque videndae. VELL. 2, 66, 4. CE 93, 2 [saec. I]. OCTAVIA 243 -em videt fruiturque vita. sim. al. [iunctura -x vitae non exstat ante aevum christianum, v. e. g. ITALA p. 1822, 68. IVVENC. 2, 641. al.; de CIC. ac. 2, 26 v. p. 1916, 29]; ceterum ex exemplis in capitis alterius parte II allatis haud pauca huc vergere monemus): ① usu communi:

A locutiones sollemnes: ① iuncturae nominales: ② cum subst.: -is: PLAVT. Capt. 1008 (per comparisonem, v. p. 1909, 50). CIC. Verr. II 5, 75 -is usuram (Sull. 90. Rab. Post. 48 u. huius -is et vestrum conspectum. Ps. QVINT. decl. 6, 14 p. 124, 5. al. cf. VAL. MAX. 2, 7, 9 usum [9, 13, 2 PRVD. cath. 11, 111. CE 222, 4 usibus]). Tusc. 2, 10 finem huius -is et amissionem omnium vitae commodorum (EVAGR. vita Anton. 17. al.). LVCR. 3, 80 (v. l. 6). VERG. Aen. 6, 721 cupido (v. vol. IV 1422, 13). 9, 205 animus -is contemptor. LYGD. 3, 9 permenso... tempore -is (SEVVL. carm. pasch. 1, 188 ultima labentis... tempore -is [op. pasch. 1, 15 extremis vitae terminis]). CIL XIII 3916). Ov. trist. 4, 10, 116 vivo... nec me sollicitae taedia -is habent. MANIL. 3, 59 quae astra -is honorem, quae famam assererent (SIL. 3, 147, 7, 737). VAL. MAX. 2, 6, 8 aviditate -is. SEN. Phaedr. 591 munus redditae -is (STAT. Theb. 3, 66 inhonora munera -is. QVINT. decl. 286 p. 151, 17. PRVD. c. Symm. 1, 157 functis... munere -is [opp. vivis. al.]). Tro. 939 abrumperet ense -is invisae moras (LVCAN. 2, 525 VAL. FL. 6, 733. OPTAT. 1, 13 p. 15, 21 istius incertae -is m. [opp. aeternae vitae]). al. in -e: LVCAN. 1, 115 in -e moras (VAL. FL. 4, 458). ③ cum adi.: EPIGR. Bob. 52, 6 cassos -e. CLAVD. 5, 183 -is prodigus... impetus.

② iuncturae verbales: ③ cum praepos.: in -em (ad PETRON. l. 39. ARNOB. l. 38. al., sub IVVENC.): LVCIL. 623 editus (v. vol. V 2, 82, 60 sqq. 83, 29 sqq.). CIC. har. resp. 57 suscipimur. VARRO ling. 5, 69 partus. ibid. produxit (TERT. anim. 37, 1 VLP. dig. 37, 9, 1, 15. al.). VERG. Aen. 10, 704 dedit (IVVENC. 1, 63 sub -em). MANIL. 2, 637 venientibus (CENS. 8, 3 PANEG. 6, 3, 2. al.). PHAEDR. 2, 9, 16 extulit (PETRON. 120 vers. 99). SEN. epist. 20, 13 exit (ARNOB. nat. 4, 19 ad -em). 36, 10 reponat. 54, 4 prodiremus (ARNOB. nat. 4, 21). PETRON. 94, 8 revocat ad -em (item LACT. inst. 5, 1, 9). SIL. 13, 854 ituro. al. in -e (-em, sub -e CE): SEN. Herc. O. 969 quae blanda tenes in -e miseros, vita (CE 748, 12 sub -e. cf. QVINT. decl. 337 p. 326, 19 detineat). dial. 6, 3, 3 in-visa haerebis in -e. CE 1814, 2 [saec. II] in -em... moratus (1400, 3 in -e). HIER. epist. 36, 3 infelicitur in hac -e versaberis (hom. Orig. in Ezech. 9, 5 p. 415, 5 praesenti. RVFIN. Adamant. 1, 1 huius mundi). REGVLA mag. 86, 4 in hac -e... durare. ab (de) -e: LVCAN. frg. 2 a -e relictam (reductam Burmannus) Eurydicien. MART. 4, 73, 7 a -e recessit (INSCR. christ. Diehl 2777 [a. 397] de hac -e). VLP. dig. 24, 1, 13, 1 subtractus (Cod. Iust. 3, 33, 12 pr. al.). RVFIN. hist. 3, 32, 8 discessit (INTERPR. cod. Theod. 2, 6, 4 [Cod. ultimum diem obierit. al.]). VINDIC. epist. ad Valent. 9 migrare (v. vol. VIII 936, 32 sqq.). al.

④ per casum solum: acc. (obi.; de PLAVT. Capt. 1008 v. p. 1905, 33): LAEV. carm. frg. 23, 2 -x... haedo ab epulis dimisso redditur (Ov. trist. 3, 3, 35 [i. amittere ut: VAL. MAX. 9, 12 pr.]). SEN. Phaedr. 591 Phaedrae languore quasi mortuae. SIL. 6, 33. al.). CIC. S. Rosc. 63 ut, propter quos hanc suavissimam -em aspexerit, eos... -e privarit (tropice: Brut. 12 tamquam. cf. Mil. 7 intueri [v. supra p. 90, 29 sqq.]). LVCR. 3, 80 videndae [Ov. met. 9, 779. SEN. contr. 9, 2, 20 ultra. SEN. dial. 6, 21, 6 primum. al.]. VERG. georg. 2, 340 hausere [v. vol. VI 3, 2570, 52 sqq.]. sim. saepius). 150 ne -em... hanc, quae communis est, eripere cupiat (antea: vitam ne petat. CIL XI 6810. cf. VELL. 2, 66, 4 rapuisti [CE 466, 3 CIL VIII 18606]). Cluent. 31 liberos prius vita privavit quam illi hanc... -em accipere potuerunt (VAL. MAX. 9, 12 pr. QVINT. decl. 372 p. 409, 13. CENS. 2, 2 opp. demerent. al.). fin. 5, 32 discessu a suis atque ipsa relinquenda -e (VERG. Aen. 4, 452 quo magis... -em... relinquit [GLOSS. I Ansil. LV 41 mori properet]. 10, 855 homines -emque [syn. linguam, v. p. 1461, 10 sq.]. VAL. FL. 7, 487 STAT. Theb. 10, 615 CE 701, 5). VERG. Aen. 4, 631 abrumperet (SIL. 9, 650 cuncta... cum -e). 6, 435 perosi. 12, 660 fugit (CE 995, 17 [aetate Tiberis] -emque deosque. SEN. Herc. O. 923). 12, 873 morer (CLAVD. 28, 316). Ov. met. 6, 272 finierat moriens pariter cum -e dolorem (APVL. met. 11, 21, 7). 14, 132 -x aeterna... dabatur Sibyllae (fast. 3, 255. trist. 1, 6, 24 cum... nova mores... -e dati. OCTAVIA 336. QVINT. decl. 368 p. 409, 13 syn. vitam. al.). al. abl. (separ., instr.): CIC. Quint. 74 ut... non modo... bonis, verum etiam communi -e privaret Naevius Quinctium ([39 sanguinem vitamque eripere, sim. 46]). S. Rosc. 63. CE 516, 7 [saec. II/III]. ARNOB. nat. 1, 62 vita et -e. CASSIOD. hist. 6, 34, 5 [Theodoret. 3, 15, 7 ζωῆς]. al. cf. SYNON. CIG. 431, 34 GLOSS.). Tusc. 1, 12 careant (v. vol. III 450, 24 sqq.). VERG. Aen. 4, 619 fruat (v. vol. VI 1, 1425, 83. 1426, 6. al.). STAT. Theb. 7, 772 utere -e tua. LACT. inst. 1, 11, 6 potiti. al. dat.: SEN. Phoen. 248 nox editos novae -i abstulit. CE 1611, 3 (a. 246) ereptus. ARATOR act. 1, 171 cum... corpora -i redederet (VITA Caes. Arel. 1, 40). 1, 831 reducta. gen.: SIL. 7, 226 -is piget (cf. p. 1909, 83). AMM. 30, 5, 6 taederet.

③ *locutiones adverbiales*: post -em: PS. RVFIN. Ios. bell. Iud. 2, 157 (gr. μετὰ τὴν τελευτήν). in -e: DRAC. Romul. 9, 192 poenas in -e (i. vivus) dedit. ENNOD. epist. 2, 1, 9 p. 40, 17 praeter lacrimas in praesenti -e nil habeo. 8, 27, 1 p. 217, 16 in hac -e.

④ *exempla varia (usu liberiore)*: CATVLL. 5, 5 nobis cum semel occidit brevis -x (quasi sol, cf. 4), nox est perpetua una dormienda (cf. VERG. Aen. 3, 311 si -x alma recessit. VVLG. Sirach 22, 10 defecit). SEN. Herc. O. 970 (969 vita) caritura Hercule -x vilis ista est (cf. PANEG. 2, 41, 3 -x amori, interitus horrore est. MAXIM. eleg. 1, 7 -x gravis in luctu. CE 737, 4 te sine . . . mihi nec -x nec vita iocunda est. 1125, 11 sit tibi -x dulcis). SIL. 10, 293 quod superest de -e. 15, 463 furtiva tractantem proelia -e . . . Galam sc. sacris subductum. al.

⑤ *peculiaria*: A respicitur dies mortis (cf. p. 1910, 20): ACC. trag. 37 hanc mihi supremam -em . . . dari (SIL. 10, 153 s. Tele. sinus . . . exhalat -em. 15, 66 [abl. temp.]. HOMER. 946 [om. N1, del. Vollmer]. MART. 1, 109, 17. SEDVL. op. pasch. 3, 9 p. 239, 8 s. -is spiramenta [carm. pasch. 3, 104 superas . . . auras]. VERG. Aen. 2, 668 vocat -x ultima victos ([GLOSS. V 114, 35 novissimus dies]. PS. QVINT. decl. 9, 9 p. 174, 28). OV. epist. 9, 167 -x oculis hodierna novissima nostris (met. 1, 772 LVCAN. 7, 90. TAC. Agr. 45, 5 n. in -e). SEN. Herc. O. 1473 summa. LVCAN. 4, 483 extremae momentum abrumpere -is (7, 185).

⑥ *concise fere i. q. saeculum, mundus (apud Christianos; ad colorem cf. p. 1910, 28. 45. al.)*: ORIENT. comm. 2, 332 victis -is et infidi corporis inlecebris veram quaerentes vitam. BENED. reg. prol. 43 per hanc -is vitam (viam duo codd. rec.; opp. 42 vitam . . . perpetuam).

c in indicando tempore ponitur pro die (cf. l. 13): a plur. (apud poetas [pro sing. CATVLL.] excepto ARNOB. nat. 1, 2): ① abl. temp.: CARM. CILY 2662, 7 (a. 102) -bus haec paucis . . . perfecta. HOR. carm. 4, 15, 25 et profestis -bus et sacris . . . canemus. OV. met. 14, 227 -bus isse novem (Hom. ε 28 ἐννῆμα). fast. 3, 398 his . . . -bus.

nude i. q. interdiu: MART. CAP. 9, 999 (vers.) somnolentum -bus ('oculis' post alios Dick in schedis nostris, vix recte). ② alia: CATVLL. 64, 31 optatae . . . -es advenere (i. dies nuptialis, cf. 66, 79 optato . . . lumine). LVCR. 5, 681 minui -es (syn. dies, opp. noctes). 5, 688 anni nodus nocturnas exaequat -bus umbras (indicatur aequinoctium, item: MANIL. 3, 446 velleri Arietis aequum -es cogentia et umbras ferre iugum. 4, 326 Cancer facit aequales -es aestivas brumalibus umbris [undis codd.]. de lectione ambigitur, 3, 645. 4, 341). VARRO frg. Non. p. 528, 28 ('hebdomades') quot -is habet annus absolutus. CIRIS 397 alternas . . . vivere -es. 417 tot . . . pendebat . . . -es? (cf. OV. met. 4, 262 per . . . novem -es [MART. 14, 142, 1 quinas]). HOR. carm. 4, 6, 42 saeculo festas referente -es (cf. carm. saec. 22 sqq.). PANEG. in Mess. 160 sol hibernas properat decurrere -es. OV. fast. 4, 901. 6, 39. 6, 247 instantes mediis sex -bus idus (seq. dies). 6, 725. 6, 774 post septem -es. Pont. 2, 1, 25 multus -bus ante. MANIL. 3, 512 annos et menses -esque . . . horasque dierum (cf. 3, 555). saepe. MART. 6, 59, 3. 10, 62. 6. ARNOB. nat. i, 2 tardissimas (antea: longos . . . dies). IVVENC. 4, 376 quattuor . . . -es totidemque . . . noctes praetereunt, quo eqs. (Ioh. 11, 39 quatruiduanus est). AVIEN. Arat. 1347. 1875 AVSON. 378, 1 p. 99 P. CE 1041, 3 bis vicinos complerat -bus annos (abundantiam illustravit Armini, Sepulchralia lat. 1916, 48).

β sing. (in prosa inde a CIC. Mil. 98 BELL. HISP. nonnulla exempla sensum -is matutinae quodammodo servantia ab usu p. 1908, 38 sqq. illustrato difficillime discernuntur): ① abl. temp. (cum attributo, cuius vice ponitur gen. l. 64): CIC. carm. frg. 28, 1 omni -e ([Hom. T 226 ἡματα πάντα]. STAT. silv. 1, 4, 118 opp. nocte. cf. MART. 8, 20, 1 nulla non -e). CATVLL. 64, 16 illa atque <haud> alia . . . -e (pron. ut: OV. ars 1, 413, qua . . . -e . . . quaque die. et saepe, in poesi praeter PORPH. HOR. carm. 3, 18, 11 [hic dies Hor. 9]). 64, 325 laeta. BELL. HISP. 10, 1 insequenti (19, 3. 5 [i. die quater]. cf. OV. fast. 4, 625 secutura. 4, 675 sequenti [5, 730 DON. vita Verg. l. 11 Br. AMM. 19, 6, 13]. AMM. 23, 3, 8 secuta [31, 11, 4]). HOR. sat. 2, 2, 116 profesta (cf. TIB. 2, 1, 5 sacra [STAT. Ach. 1, 287]. 2, 1, 29 festa [PERS. 6, 69 CLAUD. 1, 143]). PRIAP. 12, 8 hesterna (v. vol. VI 3, 2668, 27 sq. cf. PROP. 3, 10, 7 hodierna [5 hic . . . dies]). OV. fast. 1, 318 Agonalis. 4, 640 Palis (cf. MART. 9, 55, 1 propinquorum). trist. 1, 1, 97 bona. 1, 11, 39 brumali. Pont. 4, 5, 7 minus decima. VAL. MAX. 1, 7, 3 proxima (PETRON. 115, 15 i. praeterita. cf. postera: PLIN. nat. 36, 97 TAC. hist. 5, 16, 1 ann. 16, 27, 1 SVET. Aug. 94, 6 AMM. 21, 13, 8). al. ② alia: CIC. Arat. 288 autumnali atque iterum sol lumine ver<n>o exaequat spatium -is cum tempore noctis (gr. 513 ἡματα νυκτὶν in describendo aequinoctio ut: VERG. georg. 1, 209 Libra medium -i atque umbris . . . dividit orbem [SERV. auct.: '-i' dixit partem caeli septentrionalis. sed cf. 208 die somnique et locum animo poetae obversantem] LVCR. 5, 688 -bus, v. l. 35]. MANIL. 4, 203. al.). Mil. 98 omitto Etruriae festos . . . dies: centesima -x (sc. festa, salutaris) est haec ab interitu P. Clodi . . . altera (item cum num. ord.: VERG. Aen. 3, 117. 11, 210. OV. saepe. PLIN. nat. 2, 44. al.). CATVLL. 66, 70 comam nocte premunt vestigia divom, -x . . . Tethyi restituit. VERG. ecl. 7, 43 si mihi non haec -x toto iam longior anno est (SERV. auct.: dies. cf. l. 75 et HOR. carm. 4, 11, 19 ex hac -e [sc. idibus April.] Maecenas . . . ordinat annos. OV. fast. 1, 463 -x eadem. sim. al.). Aen. 8, 170 crastina (v. vol. IV 1106, 51 sqq.). MORET. 67 (68) festa (OV. fast. 6, 191. trist. 5, 5, 41 [42] nulla). HOR. sat. 1, 5, 39 postera -x oritur . . . gratissima (OV. rem. 509. al. VAL. FL. 2, 664 SIL. 11, 369. et saepius [in prosa: AMM. 19, 6, 1 p. -is initio]. cf. p. 1908, 58 et proxima: OV. fast. 1, 637. al. CVRT. 4,

11, 21 [in prosa ut APVL. met. 8, 16, 1]. SIL. 10, 333. al.). 2, 6, 59 perditur . . . -x (cf. SEN. Herc. O. 1865 Herculi concepto -x una perit noctesque duas contulit Eos). LYGD. 3, 25 niveam (26 felicem . . . diem. cf. OV. fast. 1, 71 prospera [72 bona . . . die]. Pont. 3, 1, 159 bona. MART. 9, 52, 4 felix utraque -x diesque . . . signandi melioribus lapillis). PRIAP. 63, 7 acta sub laboribus -e parem diebus pervigil traho noctem (sim. in distinguendis operibus diurnis nocturnisque: ELEG. in Maecen. 1, 99 -x est, taurus arat; nox est, requiescit arator. CARM. de bell. Aeg. 67. OV. met. 7, 662 syn. diem. SEN. epist. 122, 2 officia -is noctisque. al.). PROP. 4, 1, 143 puellae arbitrio noctem -emque videbis. OV. met. 9, 760 iugalis (STAT. Theb. 2, 272 sub -e i.). Ib. 217 natalis. et saepe.

d de claritate aedibus aliisve locis clausis immissa (sing.; saepius et magis technice lumen, quae vox a iurisconsultis sola adhibetur; opp. lumen 'foramen' VITR., sol PLIN.): VARRO ling. 5, 161 (de impluvio) relictum erat in medio, ut -em caperet (carp. cod.; cf. lumina capere VITR. 1, 2, 7. 1, 4, 2 et CALP. deol. 4 p. 4, 23 carcerem . . . angustis foraminibus tenuem -is umbram recipientem). rust. 3, 9, 19 (6 ut lumen praebeant fenestras gallinatio) -x pinguitudinis vindicta. VERG. georg. 4, 298 obliqua -e fenestras. OV. ars 3, 807 nec -em in thalamos totis admitte fenestris (MART. 11, 104, 6 ludere teste lucerna et . . . admissa rumpere -e latus [opp. tenebris]). VITR. 5, 10, 4 labrum . . . sub lumine faciendum videtur, ne stantes circum suis umbris obscurant -em ([6, 3, 11 lumina]. AVG. in psalm. 91, 14 l. 32). SEN. contr. exc. 5, 5, 1 SEN. epist. 57, 2. 82, 13 STAT. Theb. 7, 393. PLIN. epist. 5, 6, 26 in cella caldaria tres descensiones, duae in sole, tertia a sole longius, a -e non longius. al.

2 signorum nocturnorum (in enumeratione siderum p. 1905, 68; plur. l. 37. 38 sqq. 49): a lunae: LVCR. 5, 576 luna . . . sive notho fertur loca lumine lustrans sive suam proprio iactat de corpore -em (cf. CIC. nat. deor. 2, 103 luna eam -em, quam a sole accepit, mittit . . . et varias ipsa -is mutationes habet [infra: lumen solis]. PLIN. nat. 2, 45 mutuata ab eo sole -e [seq. inaequali lumine]. sim. al.). VERG. Aen. 6, 270 per incertam lunam sub -e maligna. LIV. 44, 37, 9 donec luna (sc. quae defecerat) in suam -em emersit. SEN. suas. 3, 1 et 4 plena -is suae luna (cf. 4, 2 plenam -em). SEN. Med. 793 (ad Lunam) face tristem . . . -em funde. LVCAN. 8, 721. 9, 940 -e recepta. PETRON. 122 vers. 131. al. ? plur. i. q. dies mensis lunaris (cf. lumen): MANIL. 1, 187 cum luna . . . per totidem -es mutetur et orbis ('phases' Pingraeus, sed v. Housman ad l.).

b stellarum: CIC. Arat. 50 altera pars Cygni nec parvis nec claris -bus ardet (gr. 277 ἀστέρων . . . ὅν μὲν ἀπαγοίς. plur. de partibus signi ut: 98 [93 stellae]. 331. 367. 434 MANIL. 1, 476). 154 stellam iacit ex se Pistris spina evalida cum -e refulgens. 394 emergit larga cum -e B o t e s, (Q. CIC. carm. frg. 20 serus . . . conditur . . . cum -e B. [v. Sou-chay, ed. Auson. p. 425; an ad p. 1907, 33?]. VAL. FL. 2, 68 quo sidere vibret Ens et . . . niteat qua -e B. MART. CAP. 8, 808 vers. 6). al. (cf. s. v. lumen). VERG. Aen. 2, 694. 698 MANIL. 1, 300. 1, 320 Corona -e micans varia (322 lumina). al. GERM. 79 (gr. 80 αἰγλή). SEN. dial. 11 (12), 8, 6 nat. 1, 1, 7. 1, 2, 2. 11. al. c variorum: SEN. nat. 1, 14, 2 (de ignibus caelestibus) quidam colores sunt candidae -is. 1, 15, 2 (tractantur fulgures q. v. αἰλα. cf. APVL. mund. 16 [saepius, etiam plur.]). 6, 3, 3 ignium multam post se -em trahentium. 7, 17, 3 (ex Apollonio Myndio) aliis cometis rubor est sine ulla -e, aliis candor et purum . . . lumen (CALP. ecl. 1, 78 PLIN. nat. 2, 90 SIL. 1, 463 AMM. 25, 10, 3). Italia respicit VAL. FL. 8, 57 (de Iasone oculis draconis obvio) inter nubila flammam conspiciet et saeva vibrantes -e tenebras; . . . quod tam lugubre refulsit sidus? ait. pro miraculo (subest exod. 13, 21 in columna ignis) PRVD. cath. 12, 168 (tropicis) -is columnam praefereus Christus. ham. 476 -e columnari.

3 fulminis (sing.; de VERG. Aen. 7, 142 [cf. SERV.] interpretes adhuc ambigunt): SEN. Ag. 496 dirum fulmen . . . micat miserisque -is tanta dulcedo est malae: hoc lumen optant. nat. 2, 56, 2 (de fulguratione) hanc e nubibus subitae -is eruptionem. LVCAN. 5, 630 -x etiam metuenda perit nec fulgura currunt clara. PLIN. nat. 35, 177 sulphurea. VAL. FL. 2, 198 fragosa. 4, 664. 4, 673 fulminea fax tenui . . . -e fugit. SIL. 17, 477 atrox. APVL. mund. 15 clara (gr. aliter). AVSON. 364, 19 p. 92 P. VVLG. Iob 37, 15 -em nubium dei (cf. lumen ibid. 3. 11). MART. CAP. 8, 896 trisulcae -is . . . fulgorem. ISID. orig. 13, 8, 2 -x . . . quae apparet ante tonitruum, fulgetra vocatur (seq. lumen).

4 arcus caelestis: SEN. nat. 1, 3, 1 inaequalitas nubium alternis -em (sole effectam, cf. quae monuimus ad B2a) umbramque permiscet et exprimit . . . arcus varietatem (item ibid. 4, sed 3 fulgore, 4 supra lumine). LVCAN. 4, 80 arcus vix ulla variatus -e colorem. CLAUD. carm. min. 28, 4 arcum variata -e rubentem.

5 nimbi divini: v. p. 1909, 15.

B -x non caelestis (v. etiam p. 1909, 1): 1 strictius pertinet ad ignem (sing.): a instrumentorum lucendi gratia accensorum (cf. VARRO ling. 5, 119 lucerna dicta a -e). CIC. Cael. 67 lychnorum (opp. solis). LVCR. 5, 299 (de lychnis taedisque) nec loca -x . . . relinquit (cf. 298 lumen et de ipsis instrumentis 295 lumina sicut PRVD. infra). OV. am. 3, 9, 8 sine -e facem (rem. 140). STAT. Theb. 1, 435 Adrastus progrediens numerosa -e ([SCHOL.: cum multis lampadibus]. PAVL. Nol. carm. 19, 419 lychni distinguunt . . . n. -e tenebras [417 lumine]). APVL. met. 2, 24, 5 lucerna . . . praegrans et oleum ad -em (i. diem) -i sufficiens. 10, 20, 3 cerei praeclara micantes -e. TERT. idol. 15 p. 49, 10. ITALIA apoc. 18, 23 (cod. g. al. = VVLG.). AVSON. 364, 19 p. 92 P. PRVD.

[Ehlers]

cath. 5, 27, 144 (141 pendent . . . lumina). CORIPP. Iust. 1, 363 conveniunt proceres: -x sacra palatia conplet (*haud sine ambiguitate dictum videtur ut: 2, 299 Iustinus coronatus egreditur cum -e sua* [cf. STAT. *supra cum p. 1909, 18, 25. similiter fortasse 3, 212*]). *per similitudinem de fulgore lampyridum* PLIN. nat. 18, 252; *ambigue in lychnite gemma describenda l. 32sq.* b in univ.: VERG. Aen. 2, 569 (*inter versus a Tucca et Vario detractos*) dant clara (m) incendia -em erranti eqs. LVCAN. 9, 73 qui fulget -e maligna, ignis rogi. frg. 7, 4 (*de Phaethonte*) vice mutata . . . ardens terra dedit caelo -em (cf. Ov. met. 2, 331 lumen). STAT. Theb. 10, 600, 12, 424, 432. TAC. ann. 14, 21, 3 tanta -e ignium. APVL. met. 8, 16, 7 nimia -e flammaram (ALC. AVIT. hom. 6 p. 110, 18). TERT. anim. 10, 9. CLAUD. 8, 193 subita cum -e comarum . . . flagraret apex Ascanii (195 candor. cf. Verg. Aen. 2, 683 lumen). al. tropice: HOR. ars 143 non fumum ex fulgore, sed ex fumo dare -em cogitat Homerus (v. Brink ad l.).

2 *latius vel hyperbolice* (plur. MANIL. l. 24, 56): a de splendore pulchro, nobili sim. (saepius ita, ut -x solis, lucernae sim. *reperussa vel similis dicatur*, cf. CATVLL. 64, 275 undae purpurea . . . ab -e refulgent. LVCAN. 2, 806 cauda . . . pavonis, larga cum -e repleta est [808 luminis ictu]. al.): α rerum: ① auri, argenti, gemmarum: VARRO Men. 121 coronam ex auro et gemmis fulgentem gerit -e locum efficiens (*item, nisi fallimur, in corona describenda* PANEG. 10, 3, 2). LVCAN. 4, 1126 viridi cum -e smaragdi (cf. PRVD. psych. 863 herbida). ? MANIL. 5, 512 -bus (*contextu corrupto*; noctibus Shackleton Bailey, *Class. Quart.* 6, 1956, 86). PLIN. nat. 21, 168 (*de herba q. v. heliochrysos, chrysanthemon*) ad solis repercussum aureae -is in orbem veluti corymbis dependentibus. 37, 83 opalo contra solem vibrato fulgor . . . -is in digitos funditur. 37, 94 (*ex Satyro*) carbunculos -em . . . non fundentes convoluti igne flagrare. 37, 131 asteria gemma inclusam -em pupilla quadam continet eqs. (inde ISID. orig. 16, 10, 3). STAT. Ach. 1, 298 Deidamiae gemmis -x maior (*quam sororum g.*) inest. APVL. mund. 26 argenti -e (om. gr.; cf. PRVD. cath. 7, 79 metalli . . . -x argentei). SOL. 52, 58 lychniten . . . cuius -is vigorem flagrantia excitat lucernarum (cf. PRISC. periheg. 1071 lychnis -em simulat splendore lucernae [1072 lumine ut 326]). PANEG. 4, 29, 5 gemmarum (PRVD. psych. 334 BOETH. cons. 2, 5, 8 W.). 4, 35, 4 auri. IUL. VAL. 3, 17 p. 126, 16 lapidum in crateribus. al. ② aeris, ferri: VERG. Aen. 2, 470 Pyrrhus . . . telis et -e coruscus aena ([GLOSS. IV 450, 32 splendore armorum. cf. Hom. N 341 ἀνὴρ χαλκεῖν]). CLAUD. 7, 135 seq. splendore ferri). 7, 527 aera . . . fulgent sole laessita et -em sub nubila iactant. VAL. FL. 1, 486 Acastum . . . parmae -e coruscum. SIL. 3, 371 clara thoracis -e nitebat Sedetana cohors (*thoracem linteum intellexit Lemaire coll. 272, 9, 587 sq. sine necessitate*). 5, 308 propior . . . a fronte coruscae -x galeae. 8, 435 clipeata . . . sub sole corusco agmina sanguinea vibrant in nubila -e. 9, 107 fulsit -x tristis ab armis Mancini luna proditi, 10, 104 (102 galeae fulgor). STAT. Theb. 3, 226 clipei Martis . . . cruenta -x rubet (*aemula solis*, cf. 6, 666). 9, 857 torva c. metuendus . . . -e Dryas (cf. 7, 255 nivea arma eiusdem). MEROB. poet. 68). 8, 124 ferri. 12, 659 armorum (PANEG. 4, 14, 3). 12, 732 cuspidis. silv. 1, 1, 71 -em . . . coruscam . . . equi aenei. Ach. 1, 864, 882. VVLG. Hab. 3, 11 sagittarum (seq. splendore fulgurantis hastae). PRVD. psych. 108 (106 nitorem). SIDON. carm. 7, 266. ALC. AVIT. carm. 5, 377 alberti certat -x ferrea (sc. cassidis) lunae (cf. p. 1914, 9). al. ③ rerum variarum (de albore lini parum constat l. 41; *ambigue de specie lucida vestimentorum in transfiguratione Christi* TERT. adv. Marc. 4, 22 p. 495, 18 resurr. 55 p. 115, 3 [Matth. 17, 2 λευκά ὡς τὸ φῶς]): MANIL. 5, 258 Tyrias imitata papavera -es (*colores lucidos* Housman coll. Ov. met. 9, 340 Tyrios imitata colores . . . lotos. cf. AVSON. 419, 83 p. 375 P. praetextam meam purpureae tuae -e fucata). PAVL. FEST. p. 119 ('Lucani') loca cretosa . . . id est multae -is (cf. TIBERIAN. carm. 1 [Anth. 809], 2 amnis -e ridens calculorum. RVT. NAM. 2, 67 dives marmoribus tellus, quae -e coloris provocat . . . nives). VAL. FL. 3, 558 stagna vaga ceu -e micant luna vel sole radiante . . . tale iubar diffundit aquis Hylas (cf. AVSON. 298, 33 p. 154 P. vitrea fontis. Mos. 62 caerulea aquarum). AMM. 28, 4, 19 vestes -e nitentes ambigua (Valesius, cf. 23, 6, 84 lumine colorum . . . vario; arbitria cod., arbitra Gelenius). CARM. de resurr. 202 (*de floribus paradisi*) omnia praerutilam miscent . . . -em (*contextu obscuro 203 lumine, quae vox in laudibus florum praefertur; paulo aliter supra l. 26*).

β *animantium* (exempla ad splendorem oculorum pertinentia sub II afferuntur): ① avium: GRAT. 78 vellera cygni clara -e coruscant. CLAUD. carm. min. 27, 20 cristatus apex Phoenicis tenebras . . . serena -e secat sc. siderea velut solis (cf. 36 lumen). ② hominum, deorum (cf. p. 1909, 13): VAL. FL. 5, 365 Iuno Iasonem roseae perfudit -e iuventae (sec. Verg. Aen. 1, 590 lumen . . . i.). SIL. 7, 471 (466 sq. niti fultis affulsit vultu ridens Venus) fessi . . . nitoris -e cadunt oculi Paridis. 13, 781 -e refulget praecipua frons sacra viro (i. Homero). STAT. Ach. 1, 305 fax amoris -em . . . genarum tinguit. ITALIA psalm. 103, 2 (Veron. al.) deus circumamictus -em sicut vestimentum (Psalt. Rom. al. = Vulg. lumine). FAV. EVL. 25, 5 W. (p. 19, 5 H.) animarum beata -e fulgentem galaxian (cf. FAVST. REI. serm. 12 p. 270, 16 solis claritatem habebit -x corporum in vita beata. v. etiam p. 1914, 51). HIER. interpr. Iob 29, 24 (= VVLG.) -x vultus mei (sc. Iob. dei: psalt. sec. Hebr. 4, 7 [Psalt. Rom. al. = Vulg. lumen]. 44, 4 [in illis versionibus inluminatio]. 90, 8). CLAUD. 10, 11 pulchros, Mariae sed -e minores . . . ornatus. carm. min. 31, 49

sub -e tui (sc. Serenae) . . . oris. CORIPP. Iust. 2, 73 pulcherrima proles Sophiae, -e sua plenam quae possit vincere lunam.

b *de inflammatione morbosa*: LVCAN. 6, 1146 oculos suffusa -e rubentes (Thuc. 2, 49, 2 τῶν ὀφθαλμῶν ἐρυθρήματα καὶ φλόγῳσις).

II *speciatim de virtute oculorum* (sing.; de MART. CAP. 9, 999 [vers.] -bus v. p. 1911, 31): A per se: 1 i. g. splendor: VERG. Aen. 9, 731 nova -x oculis Turni effulsit. PLIN. nat. 11, 151 oculi caprae lupoque splendent -emque iaculantur (antea: fulgent radiantque). STAT. Theb. 1, 105 sedet intus abactis ferrea -x oculis Tisiphones (*comparatur rubor lunae deficientis*).

2 *circumscribitur vel indicatur visus*: a praemonenda: passim subauditur claritas caeli oculis recepta, quem sensum integrum servant VARRO ling. 5, 69 (*de Iunone Lucina*) -x datur oculis (cf. PAVL. FEST. p. 304). PLIN. nat. 11, 139 -is usu. IVVENC. 2, 413 cernite -em (411 lumen ademptum). PALLAD. hist. mon. I 6 p. 276^B -em, quam amiserat, vidit catulus caecus (gr. p. 57, 10 B. ἀνέβλεπε). opp. lumen caeleste APVL. Plat. 1, 14 p. 209 (v. sub B), lumina 'oculi' p. 1811, 33; peculiariter IVVENC. 2, 517 caecorum tenebrae mutantur lumine -is (i. claritate visus). b exempla (de Ov. met. 2, 35 v. p. 1905, 80; falso olim legebatur RVT. NAM. 1, 166 sec. ed. pr.): Ov. met. 3, 515 cladem -is ademptae obicit Tiresiae Pentheus (517 luminis . . . orbis, quae locutio respondet etiam 14, 197 [189]. color primarius apparet l. 15, cf. p. 1908, 29 et vol. I 682, 45 sqq.). SEN. Oed. 290 -e viduatum Tiresiam (cf. 301 -is inopem). dial. 1, 5, 2 careant -e Appius et Metellus. PLIN. nat. 8, 151 (*de catulis caecis genitis*) cum numero augeri dicunt tarditatis ad -em dies (antea: quo . . . eo tardiorum visum accipiunt). VAL. FL. 4, 427 -is egentem Phinea (STAT. Theb. 6, 717). SIL. 2, 122 parva . . . oculos iam -e natantes (<in> -e Livineius ut STAT. Theb. 2, 638. v. etiam Ov. met. 5, 71 oculis sub nocte natantibus atra). 4, 758 Hannibal oculo amisso sat . . . putat esse -is, Capitolia cernere victor. STAT. Theb. 4, 542 (log. Tiresias) obruit ora deus totamque in pectora -em detulit (sc. facultate vaticinandi data. cf. ibid. 584 externae [i. qua externa videre possim] satis est mihi -is. aliter p. 1916, 52). 11, 585 effossae (offensae var. l.). QVINT. decl. 297 p. 173, 5 quae excaecata est, cui erepta -x est (CALP. decl. 43). Ps. QVINT. decl. 16, 1 p. 291, 12 quid non darem . . . pro -e matris flendo excaecatae? APVL. met. 2, 28, 4 conditis oculis . . . -em infunde (antea: solis usuram. PRVD. apoth. 688 [cf. 699 -em sumpsisse]). 6, 14, 4 (?). TERT. anim. 27, 6 in coitu devigescimus cum -is detrimento. adv. Marc. 5, 17 p. 634, 3 deus oculos -e ditavit. ARNOB. nat. 1, 50 Christus dedit visum luminibus caecis . . . et hi famuli quoque . . . -e oculos implevere iam perdita. 1, 51 ut caecis restitueret -em (cf. LACT. inst. 4, 26, 4 reddidisse. PRVD. cath. 9, 36 reducta. MART. CAP. 8, 805 [vers.] recepta). al.

B *cum determinatione*: visionis: APVL. Plat. 1, 14 p. 209 oculorum acies . . . quadam -e v. inlustres noscendi luminis officium tenere. oculorum (*respicitur splendor vel acies*): AMM. 21, 13, 15 o. . . vibratae -is (*vix gen. qual.*) ardorem. 21, 16, 19 -e o. edita cernensque acutum (cf. 16, 10, 10 rectam aciem luminum tendens). 27, 6, 15 o. flagrantior -x. HIER. psalt. sec. Hebr. 38, 11 (Psalt. Rom. al. = Vulg. lumen). VVLG. prov. 15, 30 -x o. laetificat animam. Ps. ORIG. hom. in Matth. 2 p. 255, 22 -x o. et longaevitas vitae aeternae in regno dei. visus (tropice): BOETH. cons. 3 carm. 11, 3 quisquis profunda mente vestigat verum . . . in se revolvat intimi -em v.

CAPVT ALTERVM: in imagine et translate (exempla tropica ab usu proprio minus recedentia aptis capitulis prioris locis subiunximus):

I *usu profano et communi* (sing.): A praevalente respectu decoris, praeclearitatis sim.: 1 metonymice de hominibus (aliter de Christo p. 1917, 20; sublucent imagines variae): a vi sollemni, sc. honorifice dictum (per hyperbolen iocosam PLAVT.; falsa var. l. pro laus Ov. Pont. 4, 6, 9 [addatur ad p. 1064, 79 sqq.]): PLAVT. Capt. 864 (*per prosopopoeiam*) ego nunc tibi sum . . . Iuppiter, idem ego sum Salus, Fortuna, -x, Laetitia, Gaudium (log. parasitus, item certius paratragedians: Stich. 618 o -x oppidi). ENN. scaen. 72 o -x Troiae, germane Hector (*de eodem*: ACC. trag. 163^a -x Dardaniae [VERG. Aen. 2, 281 o -x D., ubi SERV. auct.: quasi dies noster eqs. GLOSS.^L I Ansil. LV 438 salus]). CIL VI 10115^a Gaius Theoros, -x, victor pantomim(orum). PLIN. nat. 17, 38 (37 fons ingeniorum Homerus) Cicero, -x doctrinarum altera (*post solem*: 27, 3 [laudes pacis Romanae] dei Romanos velut a. -em dedisse rebus humanis videntur. CORIPP. Iust. 2, 149 Iustinus solis habens speciem: -x a. fulsit [de eodem 4, 99. cf. de Sophia 3, 83 lumen . . . secundum sc. post Iustinum]). CIL IV 1901 M. Pilei Piere -x Pompeianorum. SIL. 13, 707 (umbra Pauli ad Scipionem) -x Italum. DECL. in Catil. 7 M. Papirium, -em omnis patriciae dignitatis. OPT. PORF. carm. 8, 1 -x aurea mundi (*in laudando Constantino ut saepe apud eundem*). 17, 15 aurea -x vatium Vergilius (epist. ad Constant. 4). CE 1413, 1 (ca. a. 400) -x patriae, sublime decus p(ate)r Osius urbis. MART. CAP. 2, 119 (vers.; Calliope ad Philologiam) o -x nostra. ENNOD. opusc. 3, 142 p. 367, 20 episcoporum -x Epiphanius. CORIPP. Iust. 1, 250 -x urbis et orbis, Iustiniane (cf. 3, 79 spes u. et o., Romani iubar imperii). b vi familiari, sc. amatorie dictum (sensu ambiguo: PLAVT. Mil. 1344 [Philocomasium expergiscens ad Pleusiclem] -x, salve. Ov. met. 14, 725 gemina . . . -e [i. vita et puella]. per comparisonem: VERG. Aen. 4, 31 -e magis dilecta Dido [5, 724 vita . . . care m. cf. CLAUD. 26, 309]. FRONTO p. 66, 8 [Ehlers]

v. d. H. [p. 72 N.] *filiam* id tibi esse quod -em serenam): α varia: LVCIL. 1140 -i effectae (*obscurum; ibid.* deliciis, cinaedo, sectatori). CIL IV 5409 (? *Lal*) age vita, domo -x. MART. 1, 68, 6 'Naevia -x', inquit *Rufus* 'Naevia lumen, have'. FRONTO p. 78, 28 v. d. H. (p. 84 N.) vale, domine, -x omnium tuorum. CE 663, 2 (a. 363) *Marciam deflens maritus* dulci coniugio (?) qu[a]eritur se -e relictum i. *privatum* (item de uxore: 1431, 5 o -x clara tuo ... marito. CIL VIII 11464). 1380, 1 (a. 549) de filia. CIL XIII 10024, 145 (in gemma). β iunctura -x mea vel m. -x (nostra l. 10): in praedicatione: CATVLL. 68, 132 et 160 (de Lesbia). CIC. fam. 14, 5, 1 tu (sc. Terentia) et Tullia, -x nostra. MART. 7, 14, 7 (I nostrae ... puellae). in allocutione (sc. puellae amatae, nisi alia adnotantur): CIC. fam. 14, 2, 2 (ad Terentiam) m. -x, meum desiderium (compellatur uxor ut: OV. trist. 3, 3, 52). TIB. 3, 9 (4, 3), 15 (*Sulpicia ad Cerinthus* ut: SVPICIA Tib. 3, 18 [4, 12], 1). PROP. 2, 14, 29 ad te, m. -x, veniet mea litore navis servata (*similiter ludere videtur* 2, 29, 1 hesterna, m. -x, cum potus nocte vagarer eqs.). 2, 28, 59 OV. am. 1, 4, 25, 1, 8, 23 (*lena ad puellam*). 2, 17, 23. ars 3, 524 Aiaci mulier ... dixit -x m. ...? PHAEDR. app. 27, 7 MART. 5, 29, 3 ANTH. 427, 1. 460, 1. CE 1341, 5 (ad matrem).

2 de ipsa praestantia: α generatim: α pertinet ad quamlibet gloriam, salutem, felicitatem (adamant CIC. in rebus Romanis celebrandis; cf. usum p. 1909, 41sq. illustratum): CIC. Manil. 33 tantumne unius hominis ... virtus ... -em adferre rei publicae potuit, ut ... nullam ... praedonum navem esse audiat? (41 imperi vestri splendor illis gentibus -em a. coepit. Phil. 13, 44 Att. 2, 1, 2 SEN. contr. 1 praef. 7). leg. agr. 2, 1 maiores mei laude populari atque honoris vestri -e caruerunt sc. imaginibus familiae (SEN. epist. 115, 7 honorum, ... magnarum potestatum falsa -x [antea: divitiarum radiantium splendor]. COD. Iust. 4, 63, 3 [a. 408/9] nobiliores natalibus et honorum -e conspicuos). Catil. 4, 11 hanc urbem, -em orbis terrarum atque arcem omnium gentium (cf. Sull. 33 lumen gentium). dom. 75 -em salutemque redditam sibi ac restitutam i. patriae me accipienti (HOR. carm. 4, 5, 5 -em redde tuae ... patriae; instar veris enim voltus ubi tuus adfuit populo eqs. CVRT. 10, 9, 4 Claudii, non solis, ortus -em caliganti reddidit mundo [3 salutem]). p. red. in sen. 5 ex superioris anni caligine et tenebris -em in re publica ... dispicere coepistis (cf. LAVS Pis. 257 caput exonerare tenebris fortunae tenuis et -em spectare novam). Lig. 6 -x liberalitatis et sapientiae tuae. Phil. 10, 12 ut, quocumque venisset Brutus, -x venisse quaedam et spes salutis videretur. al. (oratt.). LVCIL. 5, 12 Epicurus fluctibus e tantis vitam tantisque tenebris in tam tranquillo et tam clara -e locavit (*ambigue dictum*, cf. 3, 1 tam clarum extollere lumen ... potuisti sc. intelligentiae salutaris). LIV. 9, 10, 2 hoc senatus consulto facto -x quaedam adfuisse civitati visa est. SEN. dial. 12(11), 6, 2 in multa -e fortuna te posuit. STAT. silv. 4, 1, 26 -em ... a consule ducit omnis honos (i. a consulu Caesaris omnis magistratus). MART. 9, 1, 9 templum manebit cum sole et astris cumque -e Romana (PANEG. 2, 3, 2 [I felicitatis publicae]. 8, 10, 1. 9, 18, 3). TAC. Agr. 44, 5 beatissimi saeculi. PLIN. epist. 9, 14, 2 iter institutum paucos in -em famamque proxivit. FLOR. Verg. 1, 7 M. -x et fulgor felicitis imperi ([opp. provinciam latebram]. PANEG. 8, 19, 2. CLAUD. 8, 182 nimbos non sol ardentior egit: i. -x ista fuit). DECL. in Catil. 92 (*Lentulus de vaticinio Sibyllino*) -em ... de domo Cornelia ... proditum fore (infra: dignitatem suam portendi). APVL. Plat. 2, 7 ut pessimi cives -e careant dignitatis (CHAR. dig. 1, 11, 1). SOL. 7, 8 Arceilaus Pitane in -em extulit. PANEG. 2, 3, 4 gaudiorum. 4, 3, 2 rerum (opp. nitoris verborum). 8, 4, 3 sole sideribusque clarius saluari beatis -e provincias. 11, 15, 3 -em gentibus extulit (antea: salutem). OPT. PORF. carm. 10, 22 tot -x populis data est a Constantino (cf. ibid. 35). 18, 2 -e tua signes fastus ('gloria meritisque' explicat Polara). CLAUD. 8, 273 -x altissima fati (sc. regalis). al. ambigue de die salutariter oriente (cf. p. 1911, 74): DECL. in Catil. 59 (coniurati ad Catilinam) Saturnalia ... quem unum diem ... nuncupare solitus es ... fugatorem aerumnarum nostrarum, -em ac principem universae nostrae dignitatis. β presius pertinet ad nobilitatem generis naturalem vel acquisitam (cf. supra l. 27): CIC. Deiot. 30 Deiotarus vestram familiam abiectam et obscuram e tenebris in -em evocavit. VAL. MAX. 3, 3 ext. 7 ut nobiles in aliquod revoluti dedecus acceptam a maioribus -em in tenebras convertant (cf. SEN. benef. 4, 30, 4 maiorum ... -e tamquam sole). SEN. benef. 3, 32, 2 ut tenebras ... natalium suorum clara -e discuteret (cf. ibid. 5). SIL. 8, 246 Varroni sine -e genus surdumque parentum nomen (STAT. silv. 5, 3, 117 non tibi deformes obscuri sanguinis ortus nec s. -e g.). STAT. silv. 1, 4, 69 nec origo latet, sed -e sequente vincitur (antea: nobilitas). 5, 2, 16 non te series inhonora parentum obscurum proavis et priscas -is egentem plebeia de stirpe tulit. CLAUD. carm. min. 25, 72 matris nobilitas ... trahit Celerini robore -em. ENNOD. dict. 10, 5 p. 456, 20 sanguinis (4 prosapiae nitorum). epist. 1, 11, 2 p. 21, 15 natalium.

b speciatim de ornatu, nitore, puritate sim. orationis (perspicuitatem p. 1916, 3.9 distingui, ceterum hic illic subaudiri monemus; cf. sub B): CIC. de orat. 3, 24 neque verborum ornatum inveniri posse non partis ... sententiis neque esse ullam sententiam illustrem sine -e verborum ([circumscribuntur illa lumina i. σχήματα, v. supra p. 1820, 34sq. 80]. QVINT. inst. 9, 4, 15 [antea: pulchriora et sensu et elocutione]. GELL. 1, 23, 1 venustate atque -e atque munditia v. Catonis [3 virtutes dignitatesque verborum. cf. 13, 25, 12 lumina]. CASSIOD. in psalm. 74, 9

l. 174 splendidissima -e v.). SEN. epist. 100, 11 (de stilo Fabiani Papiri) multum ... -is (cf. 5 nihil ... sordidum; electa verba sunt, ... splendida. 10 non est perspicua, sed pura oratio). GELL. 10, 3, 15 -x ista et amoenitas orationis Tullianae ([opp. incompta et brevia C. Gracchi]. LACT. inst. 1, 1, 10 -e o. ornata veritas [antea: claritate ac nitore sermonis]). FAVST. REL. epist. 5 p. 183, 14 tuarum pagina litterarum ... gemina eloquii ac fidei -e praefulsit (ENNOD. epist. 4, 9, 2 p. 105, 3. cf. CASSIOD. inst. 1, 23, 2 eloquentiae). ENNOD. carm. 2, 44, 2 horto -em praeferre disert. dict. 13, 3 p. 465, 10 qui claritudinem non stili -e commendat, obnubilat. al. VEN. FORT. carm. praef. 3 quos scriptores clarae linguae iactitat -x inlustres.

B praevalente respectu intelligentiae salutaris, revelationis, explanationis sim. (huc transit LVCR. p. 1915, 41; nonnumquam apponitur quasi): 1 cum gen. rei (gerund. l. 21): a illustrantis: CIC. de orat. 1, 184 oratorem civibus -em ingenii et consilii sui porrigentem (DECL. in Catil. 30. cf. CYPR. epist. 61, 3 cordis [PETR. CHRYS. serm. 82 p. 431^A -em dubiam non minus c. ... quam corporis, i. oculorum]. HIER. hom. Orig. in cant. 2 p. 140, 3 mentis [RVFIN. hist. mon. 10 p. 429^A. al.]). ac. 2, 31 nihil ... est ei menti veritatis -e dulcius (COLVM. 3, 7, 3 opp. ignorantiae tenebris. CHAR. dig. 22, 5, 21, 3. al.). QVINT. inst. 2, 5, 7 narrandi -x, brevitatis, fides (PLIN. epist. 1, 16, 4 Pompeius Saturninus in historia magis [sc. quam in orationibus] satisfaciet vel brevitate vel -e vel suavitate [eqs.] ... n.). DECL. in Catil. 64 -em clarissimam rationum (MACR. somn. 1, 1, 6 inexpugnabilem). CYPR. epist. 69, 6 maiorem intelligentiae -em (ARNOB. nat. 4, 5 -em communis i. LACT. inst. 1, 3, 15. al.). COD. Iust. 2, 42, 4 (a. 293) ex probationum -e (4, 7, 3 [a. 290] indubia). HIL. in Matth. 10, 16 cognitionis publicae. AVG. civ. 11, 19 p. 486, 18 D. notitiae. al. b illustratae: CIC. ac. 2, 26 ratio ... quasi quaedam -x lumenque vitae. S. C. de sumpt. lud. glad. (CIL II 6278) 28 verbis ipsis ex oratione sanctissima ad -em sententiae translatis, ne ... pravis interpretationibus sit locus. COD. Iust. 9, 20, 8 (a. 290) emersa domini -e (antea: discreto ... iure d.).

2 in univ.: a generalia quaedam: CIC. Brut. 153 (152 artem dialecticam, quae doceret rem ... latentem explicare definiendo eqs.) Scaevola addit hanc artem ... quasi -em ad ea, quae confuse ab aliis ... agebantur. ac. 2, 30 quid eum facturum putem de abditis rebus et obscuris, qui -em eripere conetur? (2, 105 nat. deor. 1, 6). 2, 46 quanta -e ea (sc. res perspicuae et evidentes) circumfusa sint. 2, 62 cum res occultissimas aperueris in -emque protuleris (aliter p. 1909, 65). nat. deor. 1, 11 sententiae -em auctoris ... desiderant. VERG. Aen. 12, 669 ut primum discussae umbrae et -x reddita menti (cf. APVL. mund. 30 mens aciem suae -is intendit oculis [om. gr.]). HOR. ars 448 vir bonus (velut Aristarchus) ... recidet ornamenta, parum claris -em dare coget (PLIN. nat. praef. 15 obscuris. CYPR. ad Donat. 6 -em tibi ad cognitionem dabo). MANIL. 4, 389 cernere ... facili -em ratione (opp. caligine mentis). PLIN. nat. 2, 43 qui ... -em nobis aperuere in hac -e sc. luna. 2, 214 ingens argumentum plenumque -is. QVINT. inst. 4, 5, 22 partitio ... plurimum orationi -is et gratiae confert (seq. ut clariora fiant, quae dicuntur. cf. 5, 14, 34 nullum ... ornatum, qui modo non obscurer, subtrahendum puto; nam et saepe plurimum -is adfert ipsa tralatio. 8, 3, 72 ad inferendam rebus -em repertae sunt similitudines). al. magis proprie in vaticinatione (cf. p. 1914, 31): LVCAN. 5, 219 Phemonoe a -e sacra, qua vidit fata, refertur ad volgare iubar. b abl. modi: MAXIMIN. c. Ambr. 114 -e aperta cunctis notum (HIER. epist. 134, 1, 3 si a. se -e prodiderit haeresis. VITA Caes. Arel. 1, 31 Iudaeorum immanitas ... a. -e confunditur). AVG. civ. 20, 17 p. 446, 12 D. verba tanta -e dicta ... ut sint ... manifesta (PS. PROSP. vocat. gent. 2, 7 p. 692^B haec magistro ... t. -e, tanta evidentia praedicante). AVELL. p. 221, 12 plena -e ... clarum. p. 419, 21 satis clara -e patefecit (CASSIOD. inst. 1, 1, 6 [de genesi ab Hieronymo explicata] textus planissimus relinquitur et c. -e vulgatur). CORIPP. Iust. 4, 276 manifesta -e videmus (278 patuit. proprie Verg. Aen. 4, 358 manifesto in lumine vidi).

II usu Iudaeorum et Christianorum proprio (cf. quae s. v. lumen exposuimus; eae scripturarum sacrarum versiones, quae vocem -x exhibent illic adnotatae sunt, hic fere omittuntur): A generatim (sing.; colores quosdam adumbrant TERT. adv. Marc. 3, 8 p. 389, 11 -is, id est veritatis [respicitur II Cor. 6, 14]. GREG. M. moral. 14, 10 [ad Iob 18, 6] -em accipere gaudium debemus): 1 in script. sacris: ITALIA psalm. 42, 3 (Veron. al. = VVLG.; cf. CYPR. ad Donat. 3) emitte -em tuam et veritatem tuam. Is. 51, 4 (Tert. adv. Marc. 4, 1; cf. VVLG.) lex prodibit a me et iudicium meum in -em nationum (Vulg. populo-rum). Luc. 16, 8 (cod. a al.; cf. VVLG.) filii huius saeculi prudentiores sunt super filios -is (Ioh. 12, 36 [ibid.]. al.). Ioh. 1, 4 (ibid.) in illo verbo vita est et vita erat -x hominum eqs. Rom. 13, 12 (cod. g al. cf. VVLG.) induamus arma -is. I Ioh. 2, 9 (Cypr. testim. 3, 3. al. = VVLG.) qui dicit se in -e esse eqs. al. 2 apud ecclesiasticos (specimina vetustiora): MIN. FEL. 1, 4 cum ... de tenebrarum profundo (sc. erroribus) in -em sapientiae (VITA Cypr. 2, 3 s. spiritualis. LACT. inst. 4, 20, 13. al.) et veritatis emergerem (TERT. apol. 39, 9 Cypr. epist. 63, 1, 18, 74, 10 LACT. inst. 5, 1, 12. al.). TERT. fug. 14, 2 -e Christi luminosa (Scaliger, -si trad.) adversus eam noctem (LVVENC. 3, 346. al. cf. TERT. pudic. 7 p. 232, 9 dei [PRVD. c. Symm. 2, 257 vera. al.]). CYPR. domin. orat. 36 domini [laps. 1. al.]). coron. 11 l. 26 de castris -is in castra tenebrarum (idol. 19 p. 53, 16). resurr. 21 p. 54, 17 ut dispositiones [Ehlers]

dei -em sui fugerint (cf. p. 1909, 69). 33 p. 72, 22 evangelii (cf. Avg. serm. 222 evangelica [quaest. hept. 7, 49 luminis]. CASSIOD. inst. 1, 7, 1 evangelistarum superna -e). CYPR. Demetr. 25 ad verae religionis candidam -em de profundo tenebrosae superstitionis emergere (Cod. Theod. 16, 8, 28 christianae). domin. orat. 1 -e gratiae luminati. ad Donat. 15 -e iustitiae (GAUDENT. serm. 1, 22 G. al.). epist. 40 confessionis. 55, 10 conscientiae suae -e clarescunt servi dei (Avg. civ. 1, 22 p. 36, 24 D. opp. caligine erroris. al.). idol. 14 ab errore tenebrarum ad viam -is adducere (LACT. inst. 4, 29, 15 de Christo. DOCTR. apost. 1, 1). 15 Christum -is principem. zel. 10 si homo -is esse coepisti (Ps. Avg. serm. ed. Mai 24, 1). et passim.

B metonymice (plur. l. 29): 1 de deo, Christo, trinitate (apud ecclesiasticos saepius in interpretatione allegorica; notionem tractat NICET. appell. 1 p. 2, 15): ITALIA I Ioh. 1, 5 (Ambr. in psalm. 35, 22, 2. al. = VVLG.) deus -x est (item in script. sacris: HIER. psalt. sec. Hebr. 27, 1 dominus -x mea et salutare meum [gr. φωτισμός, Psalt. Rom. al. = Vulg. inluminatio]. VVLG. Is. 60, 19sq. pro sole et luna erit tibi dominus in -em sempiternam eqs. al.). TERT. adv. Marc. 5, 9 p. 603, 15 mystice factum . . . , ut nocte Christus nasceretur, -x veritatis futurus ignorantiae tenebris (similiter ludere videtur PRVD. cath. 7, 1 -x Bethlem [gloire] Lavarenne, Etudes 356; sed v. p. 1914, 59), verbum patris). IREN. 2, 28, 4 (2, 42, 2 H.). CYPR. zel. 10 -x et dies Christus est (Ps. HIL. hymn. 1, 10 sole clarior, -x ipse . . . et d. Hymn. Ambros. I 10, 2). ANTH. 494^c, 11. INVENC. 2, 181 (Ioh. 3, 2 magister). Hymn. Ambros. I 11, 1 o -x beata trinitas. PRVD. apoth. 393 mihi -x et decus eqs. cath. 11, 60 alvus . . . , ex qua novellum saeculum procedit et -x aurea ('un âge d'or' Lavarenne l. c. 486 simplicius quam verius). ham. 3 (de deo diviso) tibi conditor unus non liquet et bifidae caligant nubila -is? (ne oculos dici credas, cf. 93 spargitur in bifidas . . . intentio -es et duplices geminis auctoribus extruit aras). al. per polyptoton in doctrina de patre et filio prolata (cf. lumen): Hymn. Ambros. I 7, 2 splendor paternae gloriae, de -e -em proferens (sequuntur corrupta). 10, 2 -x . . . -is. Avg. c. Maximin. 2, 23, 7 -x ista (sc. verbum) -x -is est (seq. -x de -e, filius de patre). trin. 4, 20 l. 21sq. Ps. EVSEB. GALLIC. hom. 9, 2. 3. 16, 4. adde p. 1823, 3sq. 2 de hominibus: ITALIA Is. 42, 6 (Tert. adv. Marc. 3, 20. al. = VVLG.) dedi te (sc. servum dei) in -em nationum (Ps. Tert. adv. Iud. 12, 2 et Vulg. gentium. locos geminos et Matth. 5, 14 s. v. lumen attulimus). Eph. 5, 8 (cod. d al. = VVLG.) eratis . . . aliquando tenebrae, nunc autem -x in domino (seq. filii -is. inde Avg. serm. 219). ab ipsis ecclesiasticis hic usus alienus esse videtur (usu potius communi p. 1914, 79). 8 de scripturis sacris, quae fidem rectam servant, sc. canonicis: Avg. nupt. et concup. 2, 29, 50 p. 307, 14 ista . . . non leguntur in tenebris Manichaeorum (antea: in libris Manichaei), sed in -e catholicorum.

C peculiaria: 1 -x vigiliarum (respiciuntur tam lumina accensa quam tempus matutinum, de quo v. p. 1907, 36): Avg. serm. 219 (in vigiliis paschae) sumus -x in domino' (Eph. 5, 8); -e itaque vigiliarum resistamus rectoribus tenebrarum (NICET. virg. laps. 22 oculos tuos non perstringebat -x v.). 222 in matre -e vigilate et patrem luminum de sinu matris -is orate (i. in vigiliis paschae, cf. 219 in hac vigilia velut matre omnium . . . vigiliarum). 2 -x resurrectionis Christi: CE 908, 5 -e resurgentis Christi. MAX. TAVR. serm. 44, 1 in dominica salvator velut sol oriens discussis infernorum tenebris -e resurrectionis emicuit. inde dies -is i. dominica: Ps. Avg. serm. ed. Caillau 2, 55, 1 alii dicunt dies dominicus, alii dicunt dies panis, alii dicunt d. -is. cf. sub 1 et -x -is de pentecoste tanquam complemento paschae p. 1823, 20.

appendicula stilistica:

1 lusus verborum, homoeoprophora notabiliora (iuxta libertas p. 1909, 43, limen p. 1407, 81, lumen p. 1811, 20sq.): PLAVT. Capt. 864 Lux, Laetitia (INVENC. 1, 167 -em . . . l. que. al.). VVLG. prov. 6, 23 mandatum lucerna est et lex -x (hebr. tôrah 'ôr). Avg. serm. 24, 6 l. 201 (v. p. 1744, 58). SYMPH. 109 Phoenix prius est fatum leti quam -is origo.

2 polyptota: notionibus variatis: PLIN. nat. p. 1916, 46. APVL. p. 1912, 82. ANTH. 494^c, 11 -em -x nostra petivit (i. vitam Christum). SEDVL. carm. pasch. 4, 253 (cf. op. pasch. 4, 20) caecus genitus in -em sine -e ruit (i. in vitam sine visu). notione fere congrua: VVLG. Sirach 33, 7 superat -x -em (i. dies diem). Ps. Avg. p. 1823, 20 (-x -is). SACR. Greg. 111, 1 -x tuae -is (antea: claritatis tuae . . . splendor). adde l. 30sq.

3 gen. -is vice adi. fere i. q. lucidus (per hebraismum): ITALIA p. 1823, 28.

per prosopopoeiam PLAVT. Capt. 864 (v. p. 1914, 63). nomen deae: Avg. civ. 4, 23 p. 173, 21 D. Titus Tatius addidit . . . Solem, Lunam, Vulcanum, -em. CIL II 676 -e divinae v(otum) s(olvit). 677 luc(i) divinae ara p(osita). 2407 (in serie deorum) Aesculapio, -i, Somno (antea: Soli, Lunae). de nomine proprio CIL IV 8547sq. parum constat.

deriv.: 1. lucinus, luculentus. cf. 1. lucanus, lucidus.

compos.: ante-, sublucanus; exlux (si recte trad.); lucifer, -ferax, -fico, -ficus, -fluus, -fuga, -fugax, -fugus, -gena, -parens, -petus, -sator.

*luxatio, ōnis f. a luxare. scribitur -tones in var. lect. Ps. Diosc. herb. fem. 44 (43). i. q. actus vel effectus luxandi (Gloss. II 498, 50

-o: στρέμμα [lax-trad.]. 586, 51 luxati(o): eversio. cf. 438, 56 στρέμμα: luxum, haec -o [lax-trad. utroque loco]. addas p. 1934, 37): THEOD. PRISC. eup. faen. 97 tit. de -bus (quae sequuntur om. cod. B) vel eiectionibus articularum, quas medici exarthrosis (? v. vol. V 2, 1185, 45) appellant. Diosc. 2, 156 p. 239, 10 bulbi -bus et doloribus, iuncturis et podagricis praestant effectum (gr. 2, 170, 1 πόνος στρέμματα, Plin. nat. 20, 105 luxata in pedibus . . . sanant. cf. Ps. Diosc. herb. fem. 44 [43] -es, podagram vel laesuras . . . curant bulbi). 3, 41 p. 396, 8 samsucus -bus bene adhibetur (gr. 3, 39 πόνος στρέμματα, Plin. nat. 21, 163 luxatis . . . prosunt). 5, 1 p. 167, 2 vitis communis -bus et morsibus venenosis imposita medicatur (gr. 5, 1, 2 στρέμματα, Plin. nat. 23, 4 medetur . . . luxatis). et saepius apud eundem. ORIBAS. syn. 1 praef. 3 Aa p. 31, 9 Mō. de fracturis bel -bus (in luxatis articulis La [lax -Li], gr. ἐν . . . ἐκβολῇς ἀρθρῶν).

luxātum v. luxo.

luxātūra, -ae f. a luxare. i. q. luxatio: CHIRON 997 fractura aut -a si quod iumentum inciderit, sic curabis: accipies aquam eqs. VEG. mulom. 4, 27 (capp. 4, 46 ad -am) remedium ad -am; incantabis sic: betat, relta eqs. (cf. infra l. 62). MARCELL. med. 36, 74 -is et fracturis solidandis utilissimum est medicamentum. PLIN. VAL. 2, 49 bubulas . . . alligatas -am . . . sanare. ORIBAS. syn. 3 add. Aa p. 897 ad ossorum -as (fracturas La). p. 905 ad fracturas et ad -as et ad flexuras nodorum.

luxātus v. luxo.

*luxo, -āvi, -ātum, -āre. a 1. luxus. legitur -tus inde a CATONE (cf. quae de usu infra ad 1 monemus), formae cet. inde a PLIN. nat. [ab *exluxare: francog. vet. et med. esloissier, var. dial.; cf. M.-L. 3021. Warburg V 480. St.] [de confusione cum laxare: voces variant in codd. saepius, e. g. PLIN. nat. 8, 179, 17, 107 (ceterum cf. l. 83); restituendum est -are PELAGON. 256 et CHIRON 605 infra sub 2; haud recte conicitur PETRON. 34, 8 larvam argenteam . . . sic aptatam, ut articuli eius vertebraeque laxatae (locatae var. l., lux-Heinsius) in omnem partem flecterentur. 128, 2 v. p. 1072, 75. Ps. SORAN. quaest. med. 229 melotis . . . laxatur circa os (cod.; lux-Rose, notione vix apta); cf. etiam l. 65 nec non p. 1934, 26. vix recte trad. DAMIG. lapid. auct. 54 pyrites lapis, hic spissus, fricatus -at amorem et percussus ignem eiicit.]

i. q. aliquid luxum facere, e iunctura naturali extorquere sim. (vix suspiceris usum intrans. i. q. luxum esse apud CHIRONEM sub 2b coll. var. lect. in VITA Caes. Arel. ibid.): 1 p. p. p. luxātus, -a, -um i. q. 1. luxus (quas voces iam CATO pro synonym. adhibuit, sed apud PLIN. nat. non nisi -us invenitur idque saepissime; de CELSO v. l. 53. 66sq.; usum vocabuli improbare videtur NON. p. 55, 11 luxum . . . , quod nunc luxari [-um Quicherat fortasse recte] ignari latine dicimus. ad 2 relegavimus nimirum abl. absol.): a neutr. pro subst. (sc. plur. praeter CATONEM; casibus obliquis subst. masc. subesse vix suspiceris, v. Öttemerfors, Plinianum 1956, 25sq.): CATO agr. 157, 4 et -um si quod [quid Keil, cf. p. 1934, 40] est, . . . brassicam tritam opponito (inde PLIN. nat. 20, 82 fistulas et -a [eluxatas trad.; corrigatur sec. GARG. MART. med. 30 p. 167, 7] et tumores). PLIN. nat. 22, 76 acanthi radices ustis -isque mire prosunt. 23, 148 nucis iuglandis nuclei imponuntur . . . mammis et -is. 24, 87 medetur et -is et spinae doloribus radix vulgaris harundinis. 24, 188 feni Graeci farina aceto . . . subacta -is medetur. 28, 234 -is recens fimum imponendum (item PLIN. med. 3, 30, 9). sim. passim apud eundem. CAPITVLA cod. J Cels. 8, 21 de -is (Celsus ipse in parte operis, ubi de -is agit, sc. 8, 11 -24, nusquam voce stirpis lux- usus est; eius loco occurrunt moveri a sedibus suis, propelli, excidere, prolabi sim.; v. etiam l. 66). PLAC. med. 5, 39 rec. β (add. cod. Vind.; in capite: ad luxum et tumorem) -is succurrit et, (om. cet.) non patitur consurgere tumorem. ORIBAS. syn. 1 praef. 4 Aa p. 31, 12 Mō. fracta ut solidentur ordinare et -a ut in suo rebocentur loco (gr. respondere videtur ἀπερθύνειν tantum). 3 add. Aa p. 901 oxyra qui facit podagricis arthriticis et ad omnem dolorem et -is.

exempla dubia: CATO agr. 160 (locus depravatus est recensione duplici eiusdem sententiae) luxum sanum fiet; et tamen cotidie cantato in alio exemplari s(ic) f(ertur) vel -o vel hoc modo: 'huat . . . ' et -o vel hoc modo: 'huat . . . ' (expunxerunt alii alia; vulgo intellegitur dat. p. p. p. fere i. q. 'ad luxum'; laxato, sc. imperat., coniecit Capitani, Maia 20, 1968, 35sq.). CELS. 7, 1, 1 (cf. CAPITVLA cod. J 7, 2 de -is) -a igitur, in quacumque parte corporis sunt, . . . sic curari debent, ut, qua dolor est, ea scalpello cutis crebro incidatur eqs. (-a neque seriei argumentorum tractandorum [de luxis agit postea 8, 11sq.] neque sermoni Celsi [v. l. 54] aptum videtur; irrepsitne a titulo capitis aetate posteriore margini perperam adscripto? vexata coniecit Lindenius; -a defendit Targa significari putans 'cum articulo illaeso, quae circa ipsum sunt nervosae partes distorquentur').

b adi.: a proprie: ① de membris: SEN. epist. 104, 18 fregit aliquis crus aut extorsit articulum: . . . advocat medicum, ut fracta pars iungatur, ut -a in locum reponatur. SCRIB. LARG. 206 emplastrum ad -um omne et eiectum et repositum articulum bene facit et ad podagram. PLIN. nat. 17, 267 contra -a membra iungenda verba carminis (ung- vel iungendae var. l.) harundinum fissurae ([sec. Catonem p. 1934, 40 ut 28, 21 Cato prodidit -is m. carmen auxiliare]. 29, 30 -is m. dolentibusque nervis). 22, 74 vulnere recentium impetus . . . et -orum pedum ac vesicae dolores. 23, 87 myrteum oleum sanat . . . articulos -os ([nisi praeferas var. lect. lax-coll. Diosc. 1, 39, 2 ἀρθρα κεχλασμένα]. 30, 79 a. -is praesentaneum est sebum pecudis [inde Ser. (Scheible)

あ　と　が　き

日本学士院は1987年に“国際 Thesaurus 委員会”の一員として認められ、毎年 Thesaurus 編纂事業に対して財政的援助を行っております。昨年ミュンヘンの学士院において三年ごとの編集会議が行われ、日本学士院の“Thesaurus 委員会”から村川 堅太郎、久保正彰の両名が出席いたしました。その際 Thesaurus 使用上の案内書というべきものをラテン語、ドイツ語、英語、フランス語等で公刊する仕事が進んでいるが、日本語訳も加えて合本にしたいとの申し出がありました。我々両名は日本語版は日本人のためのものであろうから日本で独立に出した方がよかろうと申し出、諒承されました。その公刊の方法については我々両名はいろいろ考慮いたしましたが結局日本学士院の援助によることとなり、できあがったのが本冊子であります。なお、添付されている Thesaurus の“lux”の項目は、原文には含まれていないのでありますが、本文中に頻繁に言及されている部分でありますので、我々の判断によって原寸大に転写いたし、御参考に供することにいたしました。

1989年10月 日本学士院 Thesaurus 委員会

村 川 堅 太 郎
久 保 正 彰